

公益財団法人仙台市市民文化事業団 令和3年度事業報告書

*新型コロナウイルス感染症の影響によるもの

1定款第4条第1号、第2号、及び第3号の事業（市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進）

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入内訳・備考
	事業内容					入場者数等・備考

(単位:千円)

(1)芸術文化振興事業

1)周年記念事業

①せんだいメディアテーク開館20周年記念事業						
せんだいメディアテークの開館20周年を記念し実施した。						
1	せんだいメディアテーク開館20周年事業	通年	メディアテーク	1,980	0	
	令和3年1月に迎えた開館20周年を機に、同時代性ある新たなメディアテーク像を打ち出していくために、現行の課題を乗り越え、次の10年の方向性を示すため、20周年記念誌の制作を行った。 ①記念誌発行(通年):全国書店に流通する書籍として編集した。 ②ラウンジ展示「せんだいメディアテーク・クロノロジー2001-2021」(4月～3月 7階ラウンジ ※令和2年度より継続):20周年までの歩みを、年表や写真、映像で紹介。					参加人数: ②39,800人
②能-BOX開館10周年記念事業						
能-BOXの開館10周年を記念し実施した。						
2	能-BOX開館10周年記念事業	9/11～17	能-BOX	3,267	2,797	市負担金 2,357 その他 50 入場料 390
	せんだい演劇工房10-BOXの別館として平成23年8月に開館した「能-BOX」の開館10周年事業として、能楽師 津村禮次郎とダンサー 森山開次、大前光市を核に、作曲 渋谷牧人、テノール 福井敬、箏 澤村祐司、チェロ 関口将史、笛 田中義和、和太鼓 高橋勲雄らの音楽を融合させた創作舞『雨ニモマケズ』とスペシャルコンサートを上演した(9/11)。劇場鑑賞は中止しオンライン配信のみ実施とした(9/11～17)*。仙台市能楽振興協会との共催による記念事業「謡と仕舞の会」は中止となった*。					配信チケット: 128人 視聴数: 905回

2)経常事業

①市民文化事業への支援事業						
3	多様なメディアを活用した文化芸術創造支援事業	6/1～12/31	—	76,341	76,341	市補助金 76,341
	新型コロナウイルス感染症の影響が拡大・長期化する中、仙台市内の文化芸術関係者の活動継続を支援するため、多様なメディアを工夫して用い、市民に文化芸術を届ける創造的な活動に対して助成する標記事業を、令和2年度に続いて実施した。また、採択事業について広報支援を行った。					申請:241件 採択:223件 交付:209件
4	実演芸術の公演会場費助成事業	4/1～3/31	—	153,839	153,839	市補助金 153,332 その他 507
	音楽、演劇等の公演開催を支援するため、市内の民間屋内施設を利用し、新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら実演芸術の公演を行う主催者に対し、会場使用料の一部を助成した。当初は9/30で終了する予定であったが、対象期間を3/31まで延長して実施した。					申請:1,849件 採択:1,792件 交付:1,614件
5	持続可能な未来へ向けた文化芸術環境形成助成事業	10/1～3/31	—	30,269	30,269	市補助金 30,269
	新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた次世代の文化芸術環境モデルを試行・形成・推進するために、新しい手法により仙台・東北の文化芸術を市内外に発信する事業や、地域の文化芸術活動の基盤を支える中間支援事業、感染症拡大や自然災害等に伴う地域課題に文化芸術の側面から応じた地域協働事業を、地域の芸術家、市民団体、民間施設等から公募し、文化芸術の専門家や有識者からなる審査委員会による選考を経て、助成した。					申請:88件 採択:23件 交付:23件
6	コロナ禍の安全・安心な文化芸術活動のための協働支援事業	通年	—	1,394	1,394	市補助金 1,394
	コロナ禍における文化活動の再開・継続に向けて、市民が安全・安心な環境で文化活動を行うためのワークショップやセミナー等を、文化芸術団体と協働して以下の事業を実施した。 ①映像配信ワークショップ(8/20, 21 全6回) ②映像撮影・編集・アニメーション作成ワークショップ(2/12, 19 全3回) ③感染対策についての講習会・ワークショップ(「舞台スタッフ☆ラボ」として実施)(2/5～20)					参加者: ①14人 ②24人 ③279人

7	支援・助成・協力事業	2回募集	—	14,808	14,808	市補助金 14,808
	市内で活動する団体・個人が行う文化芸術事業に対し、公募により広報支援、資金援助、その他の各種協力を行った。 ・支援事業: 当年度より情報誌に変えてウェブサイトにて市民企画事業の告知を掲載する方法で広報支援を行った。 ・助成事業: 仙台市の文化芸術の振興と普及啓発および郷土の歴史継承を推進するため、文化活動の経費の一部を助成した。また、令和4年度に向けてリニューアルを行い、令和4年度第1期に実施する事業を公募・審査した。 ・協力事業: 特に公益性の高い事業について、入場券の販売協力、人材の紹介や派遣、事務局への参画、文化施設等での各種協力などを行った。また、良質な文化事業に対し、事業団友の会会員への割引チケット斡旋などの協力を行った。					支援: 75件 助成: 101件 協力: 75件
8	名義後援	通年	—	0	0	
	団体・個人が行う文化芸術事業に対し、名義後援を行った。					74件
②公演事業						
9	宝塚スペシャル企画「タカラジェンヌOG公演」	中止	仙台銀行ホールイズミティ21	0	0	
	3月に予定していたがスケジュール調整不調となり開催を断念した*。					
10	仙台クラシックフェスティバル2021	10/1～3	日立システムズホール仙台他	84,941	82,141	市負担金 27,943 国補助金 11,791 入場料 34,329 協賛金他 8,078
	事業団設立20周年記念事業として、2006年(平成18年)、敷居の高いクラシック音楽に親しみを持ってもらい、より多くの方々にホールで聴く生演奏の魅力を届けることを目的に立ち上げた事業。新型コロナウイルス感染対策もほどこしたうえで、15回記念の事業として実施した。 ・ホール公演は、45分と60分の公演時間、チケットは一般の公演と比較し手の届きやすい料金で、本格的なクラシック音楽を気軽に楽しんでもらった。地下鉄沿線の日立システムズホール仙台、仙台銀行ホール イズミティ21、エル・パーク仙台、太白区文化センターの4施設を会場として3日間で83の公演を設け、様々なジャンルのクラシックコンサートのはしご鑑賞を楽しんでいただいた。 ・これまでの仙台国際音楽コンクール入賞者や仙台フィルメンバーの個性を活かした公演の他、仙台の音楽シーンを支える在仙音楽家、学校で音楽を学ぶ学生など、楽都仙台がこれまで育んできた音楽的財産が集結する事業団ならではの企画を盛り込んだ。 ・9/30には、日立システムズホール仙台のリニューアルオープンを記念し、隣接する旭丘小学校の児童を招待しプレコンサートを実施した。 ・例年は、無料で鑑賞できる地下鉄駅コンサートを設けているが、中止した*。					入場者: のべ21,200人
11	もりのみやこのふれあいコンサート	12/24～1/31	仙台銀行ホール イズミティ21	3,728	3,728	市補助金 3,728
	障害のある方とご家族・同行者の方などにオーケストラの演奏を楽しんでいただくとともに、芸術文化活動を振興することを目的に毎年12月の障害者週間に開催しているコンサート。仙台フィルハーモニー管弦楽団による親しみやすい演奏会で、回を重ねるごとに来場希望者が増えており、令和元年度は申込者多数により抽選を行った。事前申込制・無料とし、仙台市及び仙台フィルと共催している。 当年度は12/3に予定していた有観客での公演を中止し、オーケストラの演奏を収録し12/24から1/31までの期間で動画の配信を行った*。					
12	新春いずみ寄席	中止	仙台銀行ホール イズミティ21	0	0	
	新春の看板事業として春風亭小朝師匠を招いて、東京の定席寄席と同規模の広さの小ホールを会場に臨場感のある落語寄席の実施を予定(1/10)していたが中止した*。					
13	共催事業	通年	日立システムズホール仙台他	9	0	
	放送局等が行う公益性の高い文化事業を共催する。当年度は2021 仙台オペラ協会 第45回記念公演(一般社団法人仙台オペラ協会)、第58回宮城県芸術祭(公益財団法人宮城県芸術協会／仙台市市民文化事業団賞の授与)、人形浄瑠璃 文楽(東北放送)、ブロードウェイミュージカル「ピーターパン」、シアタークリエ企画「Home, I'm Darling」、「おしりたんでいミュージカル」(いずれも仙台放送)、小山実稚恵ピアノシリーズ(仙台・杜の響きコンサート)を共催した。 なお、人形浄瑠璃 文楽については、自主財源減少のため当年度は共催負担金の支出を休止した。					

③ホール運営活性化事業

それぞれのホールが、その機能を十分に発揮する各種公演等を行うこと、そしてより地域に開かれた施設となるよう、さらには新たな利用の可能性を探るために各種事業を実施した。

14	劇場・音楽堂等機能強化推進事業 (青年文化センター文化庁文化芸術振興費補助事業)	通年 (一部中止)	日立システムズホール仙台	44,777	44,156	市負担金 28,994 入場料等 360 助成金 14,802
仙台市の文化芸術振興の中核施設として、育成・普及・創造の3つの社会的役割を果たす日立システムズホール仙台的発信事業。国からの補助金(文化芸術振興費補助金)を財源とした助成を受け、仙台市、(公財)仙台フィルハーモニー管弦楽団などと共催。令和3年10月からのリニューアルオープンに相応しいプログラムを実施。一部中止および内容を変更しての開催となった*。 ＜普及啓発事業＞ ①青少年のためのオーケストラ鑑賞会(6/21～24、10/26～29、11/9～12):学校訪問ミニコンサートにプログラム変更*。従来の市内小学5年生と中学1年生全員がコンサートホールで鑑賞するオーケストラ演奏会に代え、学校訪問ミニコンサートを実施。仙台フィルのメンバーが弦楽器と管楽器の2チームに分かれて都度編成を変え、学年に応じたプログラムで実施した。 ②日立システムズホール仙台リニューアルオープン企画「パフォーマンスフェスティバル」(2/26～27 全館):令和3年10月からの大規模改修を終えたリニューアルオープン後に相応しい、市民協働型のフェスティバルを実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながらの開催。部活動を原則自粛とする宮城県の緊急特別要請が敷かれた時期での開催となった為、プログラムによっては、参加中止や大人だけの出演に変更するなどの対応を行う参加団体(全4団体)もあったが*、施設の利用者及びゆかりのある市民やアーティストたちの白熱したステージで観客を魅了した。活動制限を受ける実演芸術の表現者支援として、次年度継続のためのクラウドファンディングを実施した。 ＜公演事業＞ ③名曲のちから「オーケストラ・スタンダード 2021年度シリーズ 全2回」(12/17、2/23 コンサートホール):平成23年度からの継続企画。オーケストラ作品の名曲をリーズナブルな入場料で提供するシリーズコンサート。当年度第1回目は、指揮とお話で茂木大輔を招き、オーケストラコンサートの魅力を判り易く解説するトークを交えたプログラム「いつか聴いたあの音楽」を開催。第2回目は、同年5月に迫った第8回仙台国際音楽コンクールを記念して、ヴァイオリン部門・審査副委員長で元NHK交響楽団コンサートマスターを務め、日本クラシック界を代表するヴァイオリニストの堀正文を迎え、コンチェルトを披露した。 ④仙台フィル「明日へのコンサート2021」～東日本大震災から10年を経て～(12/26 コンサートホール):未曾有の大震災から10年となった当年、これまでの支援に対する感謝を込め、「心の復興」に大きな力を果たした音楽に焦点を当て、半壊以上の被害を受けた方、先着100名を招待してのコンサートを開催した。 ⑤仮:現代演劇公演:文化庁助成金の不足により中止 ⑥コンテンポラリーダンス公演:文化庁助成金の不足により中止 ＜人材養成事業＞ ⑦せんだいダンスプロジェクト (1)ダンスのいりぐちプログラム「リトルダンス」「だれでもダンス」(11月～2月 練習室):福岡県在住のコミュニティ・ダンス講師マニシアを迎えての5回のワークショップ&成果発表会。新型コロナウイルス感染症対策の観点から4回目以降のワークショップを中止とし、発表会も次期繰り越しとなった*。 (2)おどらボ「踊らないワークショップ」(2/12、13 エッグホール):「ダンスの観かた」講座。全体監修&「語る編」「撮る編」講師;飯名尚人(映像作家)、「描く編」講師;木村 良(グラフィックデザイナー)、「踊る人」;今 貂子(舞踏家)。様々なダンスのアプローチを試みたプログラムを2日間にわたり展開。濃密な時間を共有し好評を得た。 ⑧高齢者向け演劇ワークショップ(通年 交流ホール・練習室):50歳以上を対象としたワークショップを実施。「老いていくこと」「年齢を重ねること」についてアーティストや参加者同士のセッションをしながら、小作品「林冠の先」を創作し、パフォーマンスフェスティバルで発表した。演出;西海石みかさ(演出家・ダンサー・戯魚堂)、ドラマトゥルク;大河原準介(演劇企画集団LondonPANDA)。2021年度仙台市文化プログラム事業の一環。 ⑨障害のある人となない人が創る人形劇「SHIROアトリエ&スタジオ」(11月～3月 アトリエ・練習室・交流ホール):ファシリテーターがサポートやアドバイスをしながら、人形づくりや衣装づくり、劇の背景画を描くなど、人形劇に必要な様々な作品を、普段使ったことのない画材や材料で創り出した。「パフォーマンスフェスティバル」で成果発表の予定だったが、宮城県の緊急特別要請を受け実施を見送り、代替発表会を3/26に関係者のみで実施した*。2021年度仙台市文化プログラム事業の一環。 ＜その他＞ ⑩青年文化センター事業評価(通年):青年文化センターの活性化に資する事業の有効化を図るため、事業の評価モニターを5名に依頼。12月から2月までの5本の自主事業を鑑賞してもらい、評価シートで忌憚のない意見を頂くことができた。評価モニター;飯沼由和(俳優)、草薙潤一(音楽監督)、菅原紀子(ピアニスト)、千田優太(元ARCT事務局)、松村翔子(仙台市市民活動サポートセンター副センター長)						普及啓発事業 ①鑑賞者:5,036人 実施校:67校 ②来場者:2,942人 参加団体:20団体 (公演14、ワークショップ4、展示2) 公演事業 入場者: ③12/17 510人 2/23 478人 ④531人(招待100人含む) 人材養成事業 参加者: ⑦ (1)リトルダンス 18人 だれでもダンス 19人 (2)「描く編」17人 「語る編」17人 「撮る編」12人 ⑧7人 ⑨30人

15	青年文化センター活性化事業	通年	日立システムズホール仙台	232	48	コピー料収入 48
地域資源等を活用しながら、文化創造・交流拠点としての施設機能の充実と利用促進を図り、より市民に親しまれる施設に向けた事業を行った。当年度は施設リニューアルオープン企画を他課と協働制作し、次年度以降の実施を視野にクラウドファンディングを含め取り組んだ。 ①日立システムズホール仙台リニューアルオープン企画「パフォーマンスフェスティバル」(2/26～27/全館):大規模改修を終えた令和3年10月のリニューアルオープン後に相応しい、市民協働型のフェスティバルを実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながらの開催。部活動を原則自粛とする宮城県の緊急特別要請が敷かれた時期での開催となった為、プログラムによっては、参加中止や大人だけの出演に変更するなどの対応を行う参加団体(全4団体)もあった*が、施設の利用者及びゆかりのある市民やアーティストたちの白熱したステージで観客を魅了した。活動制限を受ける実演芸術の表現者支援として、次年度継続のためのクラウドファンディングを実施した。(舞台芸術振興課と協働で実施。再掲) ②青年文化センター施設機能強化事業群 ア.地域連携事業(通年) 大規模改修後の施設再開に先立ち、「せんくら」出演者によるリニューアル記念コンサートを、隣接する旭丘小学校の児童を招待し開催した(9/30)。また、旭ヶ丘地域のコミュニティ事業「わんぱく森²(もりもり)がっこ」のクッキング講座(11/20)や、フェスティバルでは地域の子どもたちによる旭ヶ丘森林太鼓と民族歌舞団ほうねん座とのコラボレーションステージ*を計画した。 イ.フリースペース活用事業(通年) 展示・コンサート等:フェスティバルではエントランスホールを活用し、イギリス出身の造形作家 カルロス・デアの作品展示のほか、仙台フィルハーモニー管弦楽団メンバーや公募出演者による演奏会・パフォーマンスを実施した。知の場所づくり(サラダ文庫):事業関係の書籍、雑誌などの文化情報を配架した移動ラックをエントランスホールに設置し、来館者に自由閲覧してもらった。令和元年度から継続。 ウ.諸室活用(市民参加・体験・交流)事業(3/27～4/5) ギャラリーを会場に、「フェスティバル記録写真展」及び「カルロス・デア作品展」を同時開催した。 エ.ホール活用事業(調査・準備)(通年) 仙台銀行ホールイズミティ21で実施した避難訓練コンサートを視察し、青年文化センターでの実施に向け検討を進めた。 ③コピーサービス事業(通年) 施設利用者用へのサービスを継続して実施した。						入場者等: ①2,942人 ②ア.コンサート 401人 クッキング講座 45人 旭ヶ丘森林太鼓 中止 イ.フェスティバルは①を含む ウ.226人 ③は収益事業
16	泉文化創造センター活性化事業	通年 (一部中止)	仙台銀行ホール イズミティ21	4,979	3,672	入場料他 2,259 助成金 500 協賛金 900 販売手数料収入 13
ホール施設等の利用促進に向けた活性化事業に取り組んだ。 ①市民協働によるロビーイベント(年2回):様々な文化芸術の鑑賞機会と同時に、施設を広く市民に紹介することを目的に開催する企画。ホールの保守点検日に使用せずに空いているホールロビーを活用し、地域を拠点に活動する団体との協働で事業を実施した。 (1)3人のピアニストによる6手連弾名曲コンサート(ピアノ:蔡翰平、佐々木真央、八巻梓)(11/10) (2)フルートとピアノで紡ぐ午後のひととき(フルート:北村杏子、ピアノ:根本美咲)(11/11) ②ホール見学会:普段目にする機会の少ない施設のバックステージを中心に、音響・照明等の機材の操作体験等の参加型の見学会を予定していたが中止した*。 ③ピアノ弾き込みボランティア運営(年3回程度):大・小ホールのコンサートグランドピアノを常時良好な状態に保つため、一定の演奏技術を持つ市民ボランティアの協力によりピアノ弾き込みを予定していたが中止した*。 ④市民ギャラリー・エントランスロビーでの展示(市民ギャラリー/1回1週間程度、ロビー/通年):地域に縁のある団体や個人との協働で写真または絵画等の展示企画を予定していたが、中止した*。 ⑤コンサートシリーズ「イズミノオト」(年3回 小ホール):仙台市泉区出身で在住の音楽家による音楽監修で良質なコンサートを開催、クラシック音楽鑑賞の楽しみ方を掘り下げて伝えていくことを目的にシリーズで実施した。 (1)第5回 スメタナ・ドヴォルザーク・ヤナーチェク 故郷ノ回顧録(7/3) 吉岡知広(チェロ/コーディネーター)、会田莉凡(ヴァイオリン)、大江馨(ヴァイオリン)、安達真理(ヴィオラ) (2)第6回 チャイコフスキー 偉大な芸術家ノ思い出に(11/28) 吉岡知広(チェロ/コーディネーター)、植村太郎(ヴァイオリン)、浜野与志男(ピアノ) (3)第7回 ドビュッシー 月ノ光(2/27) 吉岡知広(チェロ/コーディネーター)、神谷未穂(ヴァイオリン)、井野邊大輔(ヴィオラ)、戸田敦(フルート)、清水梨紗(ハープ)、野平一郎(ピアノ) ⑥避難訓練コンサート(10/18 小ホール):ホールでのコンサート本番中に地震が発生したという想定で、実際に来場者を募って行う避難訓練を兼ねたコンサートを実施した。出演:神谷未穂(ヴァイオリン)、高橋麻子(ピアノ) ⑦泉中央地区プレイガイド事業(通年):利用者へのサービス向上と来場者への利便を図ると共に、文化イベントの普及促進に寄与するため、当館ホールを会場に実施されるイベントの入場券を受託販売した。また、仙台市市民文化事業団主催の入場券も併せて取り扱い、仙台クラシックフェスティバルについては専用端末を用いて対応。他に、チラシ配置、公式サイトでの紹介など広報協力を積極的に取り組んだ。						入場者等: ①(1)110人 (2)115人 ⑤(1)344人 (2)269人 (3)367人 ⑥160人 ⑦は収益事業
④ミュージアム活性化事業						
ミュージアムの新たな魅力や個性づくりに向けた各種体験型事業やグッズ製作等を行い、来館者の増加や満足度の向上を図った。						
17	猿舞座のさるまわし	中止	榴岡公園 歴史民俗資料館	0	0	
榴岡公園を会場として、山口県岩国市に拠点を置き全国を旅しながら猿まわし興行を行う猿舞座の14回目の公演。緑の下、人も猿もリラックスした雰囲気です伝統芸に親しむ予定で開催を模索したが、中止した*。						
18	れきみん秋祭り2021 伝統芸能の記録	通年	インターネット上	256	142	助成金 141 刊行物販売 1
これまでの「れきみん秋祭り」への出演団体のうち、コロナ禍での活動再開と次世代への継承を模索している芸能団体(神楽)の様子を現地での取材から映像記録として制作し、インターネット上で広く公開した。						閲覧数: 504件(3/31時点)

19	歴史的・生活体験教室	5月～11月	富沢遺跡保存館他	263	85	古代米販売 70 参加料 15
	当館の敷地や隣接地を利用して、米づくり等富沢地区周辺で行われてきた昔の生活要素を体験する教室を行った。富沢遺跡の特徴や地域資源を活かし、参加家族が共同して作業することを主眼に置き、体験活動を通して親子の絆を深める歴史生活体験型事業である。5月～11月までの計6回(田植え・稲刈り・収穫祭等)の作業及び行事を実施した。また、収穫物を利用して、一般来館者を対象とした正月飾りづくり体験も開催した。収穫した古代米は参加者に配布し、余剰米はグッズとして当館で販売し、古代米の成長のようすや教室の振り返り展示等も行った。					参加者: 10組28人
20	地域交流促進事業	10月・3月	富沢遺跡保存館	97	0	
	当館の森(地下展示・野外展示)の価値の共有や保全への共感を得ることを目的に、①「森の響き2021 コンサート編」(10/30)と②「森の響き2021 たき火と星編」(3/5)を行った。コンサート編には三桜高校音楽部に出演していただき、たき火と星編は長町学びネットと共催して実施した。地域の人材と組織を活かしたイベントとなるよう企画し、地域活性化に寄与することができた。					参加者: ①46人 ②15人
21	歴史・芸術融合事業 「ミュージアム・シアター“狩人登場!”」	通年	富沢遺跡保存館他	966	0	
	市内を中心に演劇等の表現活動をする「劇団 短距離男道ミサイル」の協力を得て、旧石器時代の狩人が登場するイベントを実施した。ミュージアム・シアターの手法を導入することによって、考古学の知識や知的興奮に加え、当館での非日常的な空間を生かした特別な体験を提供することを目指した。これまでの活動に加え、学校利用向けの出現を実施し、事業の可能性を広げた。根本となる狩人の演技方や衣装に関しては、実験考古学的な手法も用い、旧石器時代の生活について考察を深めるための調査研究や演出等の検討も行った。より演劇色を強めた内容を考案し、令和4年度に実施を予定している。					実施回数:20回
22	映像・記録発信事業「地底の森アーカイブス」	通年	富沢遺跡保存館	111	0	
	地域に根ざした博物館として、地域情報を記録・収集・発信することを目的とした事業。仙台市在住の映像クリエイターを講師に招き、記録映像の撮影の仕方等を学ぶワークショップを実施し、地域住民の「アーカイブ」事業への関心を高めた。そのほか地域に根ざしたテーマでの記録撮影や映像記録の収集を行い、市民とともに地域アーカイブスを築くことを意識して事業を行った。野外展示の様子を紹介する動画4本を作成し、当館YouTubeチャンネルで公開した。					参加者:55人 (6/27 13人、8/15 31人、8/29中止、11/20 11人) 作成動画:4本
23	縄文祭復元事業「縄文まつり復元と創造プロジェクト」	中止	縄文の森広場	0	0	
	縄文人の暮らしの中で行われていたであろう「まつり」の復元と創造を目指してこれまで調査研究活動を行ってきた。平成29・30年度には、市民と一緒に「草舟づくり体験」を行い、乗船体験をした。また、調査研究活動の成果を公開するイベントとして、「縄文人の記憶の宴」を継続して実施してきた。本イベントは、縄文時代をイメージした演奏・舞・食・火をテーマに、市内の劇団員や市民が縄文人に扮して巨大な火祭り・縄文の音楽・踊りを行ったものである。令和2年度は、これまでの記録映像と合わせて編集を行い、2本の動画にまとめて、YouTubeチャンネル上で公開した。令和3年度は外部講師によるワークショップ等を計画していたが、中止とした*。					
24	学校・地域連携促進事業「縄文まるかじり」	通年	縄文の森広場	92	0	
	近隣学校や地域との結びつきを深め、より地域に根ざした施設になることを目的とした事業である。平成28年度から「ドッキーをつくろう」と題し、山田上ノ台遺跡出土土器の特徴を知ってもらい、お菓子づくり考古学者下島綾美氏を招いて土器片そっくりのクッキー「ドッキー」づくりを通じて山田上ノ台遺跡および縄文文化について学ぶイベントを近隣の上野山児童館と連携して実施してきた。また、オリジナルメニューの開発として、3次元計測によるミニチュアの土器型を製作し、縄文土器チョコづくりやカラーリングブック製作のイベントを開催した。令和3年度は、カラーリングブックの事業展開を図るため、台紙の印刷などを行った。					
25	展示手法の開発・導入	通年	縄文の森広場	739	0	
	新たな展示手法の開発と導入を図るための事業として令和2年度から開始した。事業の柱は「リビングヒストリー」と「3次元計測」である。令和3年度は、山田上ノ台遺跡の縄文土器を中心に3Dデータ計測を行い、データの蓄積を行った。リビングヒストリーでは、「石器製作実験セミナー」を2回実施した。 ①11/27「石器製作実験セミナー-ハンドアックス編-」講師:イ・ハニョン(韓国全谷先史博物館館長) ②3/20「石器製作実験セミナー-石刃編-」講師:佐藤祐輔(仙台市縄文の森広場所長)					参加者: ①33人(会場10人、オンライン23人) ②38人(会場14人、オンライン24人)
26	コミュニティ・アーカイブ・ラボラトリー	通年	メディアテーク	35	0	
	「コミュニティ・アーカイブ」の普及啓発と事例研究を目的に、プロジェクトブログ『コミュニティ・アーカイブ・ラボラトリー』を立ち上げ、市民による草の根的なアーカイブ活動について連載記事を掲載したほか、「草アーカイブ会議2」(平成29年度実施)の採録を公開した。					
27	smtホスピタリティ向上事業	通年 (一部中止)	メディアテーク	111	0	
	定禅寺通りに面した広場であるメディアテーク1階の巨大空間を活かした市民のひろばづくりに取り組み、親子連れ等の利用促進に向けた活動を行った。 ①定禅寺通りまちづくり活性化支援:「定禅寺リビングストリートマルシェ限定 リビングさんぽスタンプラリー2021」(7/22～25)に協力し、オリジナルグッズを提供した。また、周辺商店街や町内会とともに憩いの場づくりの準備を進めたが、中止となった*。 ②親子の居場所づくり支援:館内での親子の過ごし方を調査し、居場所づくりに求められる環境等のヒアリング結果や提案等成果を展示した(「smtでかんがえる子どもと大人の『居場所』プロジェクト報告」3/20～4/22)。					参加者: ②1,642人(3/31時点)

28	ミュージアムグッズ開発・販売事業	通年	各ミュージアム他	392	521	刊行物販売 521
	ミュージアム来館者への記念品として、かつ普及の手法として、ブランドの向上や収入確保も目指し、施設の特性や資源を生かしたオリジナルグッズの開発を行う。 ① 歴史民俗資料館グッズ : 昭和22年復興新仙台地図、昭和27年仙台地図、昭和4年および昭和8年仙台商工地図・大正15年仙台地図、明治13年宮城県仙台全図、明治17年仙台市街絵入明細全図、仙台北城下絵図、昭和26年map of Sendaiを継続販売し、新規に復刻地図として当時の商店名などが多く記載されている「大正14年全日本職業別明細図」を制作、販売した。(支出119千円、収入171千円) ② 富沢遺跡保存館グッズ : 氷河期の森で採取した素材を活用したグッズ(氷河期の森の仲間たち・リース等)、編布グッズ(コースター・しおり・ミサンガ・ストラップ)を販売。(支出55千円、収入17千円) ③ 縄文の森広場グッズ : 縄文の森広場ボランティアスタッフによるオリジナルグッズの製作と販売。一部は、家庭で出来る縄文体験の役割も担っている。(支出16千円、収入69千円) ④ 仙台文学館グッズ : 前年度までに制作し来館の記念などとして人気の高いしおり・クリアファイルなどを継続販売する他、特別展に関連したグッズを制作し来館者のニーズに応えた。(支出178千円、収入188千円) ⑤ メディアテークグッズ : ミュージアムショップ等と共同開発してきたオリジナルグッズを継続販売した。(支出24千円、収入76千円)					収益事業
⑤劇都仙台2021事業						
都市文化を支える芸術としての演劇の総合性と公益性を背景に、仙台市と共催のもと、各種振興事業を以下①～⑤の体系に基づき実施した。 ①良質な公演の機会の拡大 ②表現者の発掘・育成 ③活動を始める市民への窓口やネットワークの支援 ④教育や福祉など他ジャンルとの連携 ⑤情報交流や協働						
29	市民能楽講座	中止	日立システムズホール仙台	0	0	市負担金 0 入場料 0
	能の公演を通して市民に伝統芸能の魅力を伝える企画として継続実施している事業。「能楽」をわかりやすく、気軽に楽しみながら学べる事業として、仙台市と仙台市能楽振興協会との共催により実施。当年度は、11/23に予定していたが前年度に続き中止した*。					
30	舞台スタッフ☆ラボ	2月	演劇工房10-BOX他	1,513	1,513	市補助金 283 受講料 80 助成金他 1,150
	① オープン講座「舞台づくりにおける感染症対策」 (2/12): 緊急事態舞台芸術ネットワークの協力のもと、ガイドラインの解説と質疑応答を通して新型コロナウイルス感染症について対策や事例などの最新情報を共有する場として実施。 ② 本講座 : 舞台監督・音響・照明・制作の基礎コース(2/5～11)と、演劇公演で実際にスタッフワークを体験する発展コース(2/13～19)を開催した。 ③ 模擬公演 (2/20 2回公演): 宮城野区文化センターとの共催により、演劇『ぼくと王子さま-Le Petit Prince』(脚本・演出: 渡部三妙子)を実施した。					参加者: ①22人 ②13人 来場者: ③103人
31	10-BOX鑑賞型プログラム	通年 (一部中止)	演劇工房10-BOX他	4,360	4,187	市補助金 4,187
	① 仙台・劇のまちトライアルシアター : 仙台で子育て中の舞台関係者や子どもたちを対象に舞台芸術活動をしている方と協働し、作品創作や鑑賞に対しての様々なハードルを下げることを目指し、いろいろな手法を試す事業として令和元年度から始動した「子育ていろいろシェアリング」を継続して実施。当年度は、前年度に上演した舞台作品『子育ていろいろ 晴れときどき嵐』をオンライン配信用にリニューアルして収録を行った。 ② 「SENDAI OROSHIMACHI Art Marché(せんだい卸町アートマルシェ)」 : 県内外の先駆的な作品・評価の高い若手劇団の演目を一堂に集めての演劇祭を開催する予定だったが、中止し、オンライン配信による公開ミーティングを行った(10/6～10)*。 ③ 共催公演 : 優れた作品や話題性のある舞台作品について鑑賞の機会をつくり、観客層の拡大につなげる。さらに、県外の劇団と在仙の演劇関係者との交流の場を創出し、在仙劇団の活動の場を広げる。当年度は、劇団こふく劇場(宮崎県)の作品『ロマンス』の上演(1/15～16)とプレトーク(1/12)を実施した。					参加者: ①16人 ②20人 入場者: ③152人
32	演劇と表現の講座	3月	演劇工房10-BOX他	787	787	市補助金 757 受講料 30
	演劇表現に着目し、舞台芸術を幅広く体験し多角的に学ぶ講座。前年度に続き、フォーラスを会場に、演劇経験の有無を問わず参加者を募集し、俳優とともにコミュニケーションを学ぶ講座「10-BOX楽しく語る技術講座“推し”を魅力的に語る」を開催した(初級編 3/13、上級編 3/19～20)。メインビジュアルに集英社の漫画「まぐむすび」のイラストを使用し、タイトルと合わせて若年層に興味をもたれる広報を行った。					参加者: 21人
33	せんだい短編戯曲賞	通年	演劇工房10-BOX他	1,716	1,716	市補助金 1,716
	平成24年度から実施している短編戯曲を対象とする戯曲賞。全国公募により次代の演劇を担う人材を発掘し、冊子発行による作品の上演機会の創出、若い世代の作家の作品発表の場を提供する。平成30年度から作品上演と作品募集を隔年で実施することとなった。①市民劇団との共催により「Team HacC Lose セんだい短編戯曲連続上演」(6/19～20、8/7～8、11/6～7、12/11～12)を行った。②新型コロナの影響により延期となっていた第7回大賞作品の上演と授賞式を行った(3/5～6)。③第8回の作品募集を行った。					来場者: ①337人、②60人 応募作: ③286作品
34	能-BOX 経常事業	通年 (一部中止)	能-BOX	801	801	市補助金 602 受講料 199
	能楽施設「能-BOX」を活用し、能楽、他の古典芸能、民俗芸能など、和の文化への親しみと理解を深めるため、①「こどものための能講座」(能楽師: 山中遼晶)を実施した(7/24-8/6)。「能のおけいこ体験講座」(仙台市能楽振興協会主催)は中止した。②新規事業として、さまざまな切り口から日本文化や東北のことを探る勉強会「能-BOXゼミナール」を全5回実施した(10/16、10/17、11/20、1/22、1/29)。					受講者: ①22人 ②163人

35	共通事務	通年	演劇工房10-BOX他	821	292	市補助金 125 刊行物販売 167
	劇都仙台事業や教育・福祉などとの協働事業。ホームページの更新やせんだい短編戯曲賞の冊子印刷・販売・次年度の事業に向けた視察や調査研究などを行った。					
36	演劇-社会アクセス事業	通年 (一部中止)	演劇工房10-BOX他	200	0	
	教育現場での演劇の次代の担い手を重点支援するため、高等学校演劇協議会による「仙台市高等学校演劇祭」を共催で実施した(10/9～24)。当年度は関係者のみでの開催となった。また、小学校の学習発表会や地域の市民活動に音響・照明等の機材貸出や運営アドバイスなど舞台芸術活動の協力を行う事業は中止した*。					高等学校演劇祭 参加者:199人 入場者:200人
37	音声学ワークショップ	通年	演劇工房10-BOX他	0	0	
	磯貝メソッドに基づいた音声学講座。俳優の声と身体を見つめ直し、良い声を作るための呼吸法・発声法・発語法を学ぶ専門的なカリキュラムによる人材育成事業。プロのスキルの養成だけでなく、初心者者の指導も行う。事務局を担うIMS磯貝メソッド仙台塾と共催。3月下旬には1年間学んだ成果を披露する発表公演を予定していたが、11/28に関係者のみで実施した*。					参加者:15人
⑥創造都市推進事業						
仙台市との共催事業。市民が芸術文化に触れる機会を創出することで、魅力と活気あふれる都市づくりを推進する。						
38	地下鉄駅コンサート	中止	地下鉄駅構内	0	0	
	仙台クラシックフェスティバル関連事業として、市内及び周辺地域を活動拠点にしている団体等が出演する無料コンサートを、地下鉄仙台駅・旭ヶ丘駅構内で開催する予定(9/25～26、10/2～3)だったが、中止となった*。					
⑦東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた「仙台市文化プログラム」事業						
39	仙台市文化プログラム事業	通年	—	5,478	5,478	市負担金 5,478
	①「仙台市文化プログラム」公募・共催事業:オリンピック・パラリンピックを契機として、地域の文化芸術分野における多様な資源を生かした事業を推進し新たな成果を生み出すこと、そしてその取り組みや成果が一過性にとどまることなく令和4年度以降も継続的に波及効果をもたらすことを目指し、企画提案者と仙台市、事業団の3者協働で実施。令和3年度は、令和2年度に採択・実施した2事業について審査委員会による審査を経て継続実施した。なお、一部の事業は劇場・音楽堂等機能強化推進事業としても実施(国からの補助金等を除く)。 【実施事業】 (1)「SHIRO Atelier & Studio ーとものつくる芸術劇場ー」 実施事業者:特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン (2)「こどもおとなあそびなかまプロジェクト! のびのびーば!」 実施事業者:PLAY ART!せんだい ②beyond2020プログラム認証事務:仙台市が「beyond2020」認証組織となり、事業団はその認証事務の一部を担った。					①参加者:のべ2,727人 (1) 2,272人 (2) 455人 ②申請:3件
⑧東日本大震災10年に向けた「仙台舞台芸術フォーラム」事業						
40	仙台舞台芸術フォーラム	6月～3月	日立システムズホール仙台 演劇工房10-BOX他	9,665	9,665	市負担金 8,840 入場料 825
	東日本大震災の記憶と経験をふまえ、過去・現在・未来を橋渡しする舞台芸術作品を創造・発信するモデル事業や基盤づくりを、令和元年度から3年間継続して行った。最終年となる当年度は、仙台ゆかりの劇作家・柴幸男による、東日本大震災から現在までの10年を描く新作公演『てんとせん』を創作し発表した(12/4～5)。また、震災関連の舞台芸術作品の情報収集、関係者インタビュー・記録・編集の集大成として冊子『東日本大震災と劇都仙台～あのとき、そしてこれから』を刊行した。					『てんとせん』入場者:327人
⑨土井晩翠顕彰事業						
41	土井晩翠顕彰事業	通年	—	970	970	市負担金 937 刊行物販売 33
	平成29年度末をもって解散した土井晩翠顕彰会の事業を引き継ぎ、詩人・土井晩翠の業績と遺徳を顕彰する事業を行った。晩翠わかば賞・あおば賞の募集を行い、10/17に賞を贈呈。「荒城の月」市民大合唱の代わりに、「うちでうたおう 杜の都にひびけ『荒城の月』市民大合唱」の動画を作成しYouTube配信を行った*。また「荒城の月」発表から120年、晩翠生誕150年を記念し、「月」にまつわるエッセイを募集し、入賞作をホームページで公開するとともに、晩翠草堂、館内でパネル掲示した。					
⑩育成・普及事業						
子どもたちが芸術文化に触れる機会を広く提供するとともに、アーティスト及び指導者の育成を図った。						
42	芸術家派遣事業	9月～2月	各学校・地域	0	0	
	「仙台市文化芸術による子供の育成事業実行委員会」が文化庁から業務受託し、学校や保育所等で子どもたちに文化活動や鑑賞の機会を提供した。令和2年度実績は120カ所に派遣。当年度は126カ所を採択したが、21カ所から中止の申し出があり、最終的には105カ所で実施した*。当財団は実行委員会事務局として、文化庁との調整、実務統括、会計等を行った。実行委員会の決算額は13,818,319円。					実施会場:105カ所 (幼稚園9、保育所44、認定こども園6、児童館25、小学校13、中学校1、高等学校2、特別支援学校1、学習支援施設等4)

43	東京藝術大学音楽学部早期教育プロジェクト	12/4, 5	日立システムズホール仙台	260	0	
仙台及び東北地域における音楽教育の振興のため、東京藝大、仙台市、事業団の共同主催により、平成27年より継続開催している。 日本最高レベルの音楽教育に触れることで、地域で音楽に取り組む子どもたちのモチベーション及び技術の向上、地域で音楽教育に取り組む指導者の指導力向上、音楽教育・演奏技術への市民の理解を深める催しとなった。 当年度は12/4、5にピアノ、ヴァイオリン部門、2/6に木管楽器＋ホルンの3部門を実施する予定としていたが、木管楽器＋ホルン部門は藝大側の判断で中止となった*。						受講生： 12/4 応募14人、受講5人 12/5 応募8人、受講5人 聴講者： 12/4 46人、12/5 28人

⑪出版事業

事業団の事業成果を出版し、仙台発の編集文化の発信にも寄与した。

44	出版物の販売継続事業	通年	—	3	54	刊行物販売 54
①『仙台文学館刊行物販売事業』：『仙台本のはなし24人でつくりました』『仙台で夏目漱石を読む』『瀬戸内寂聴 生きることは愛すること』『ユキユキドンドン スズキヘキ詩集』など、仙台文学館ゼミナールの成果品や講義録、また仙台文学館選書として出版したものを、継続して販売した。（支出0、収入11） ②『仙台戯曲賞シリーズ』販売事業：『仙台戯曲賞シリーズ』01～04を窓口販売の他、ウェブサイトからの申込みにより継続販売した。販売価格は1,000円（税別）。（支出0、収入2） ③『文化芸術の社会再生力』販売事業：事業団設立20周年記念事業として実施した連続シンポジウム「文化芸術は成熟社会の再生力。」における鼎談と講演録を採録したブックレットを継続販売した。（支出0、収入1） ④『RE:プロジェクト記録集』販売事業：平成23年度から27年度まで実施した事業「RE:プロジェクト」の成果物（『RE:プロジェクト通信』5年目のRE:プロジェクト通信）に活動の記録や振り返りを加えて1冊にまとめた本を継続販売した。（支出3、収入40）						

⑫広報事業等

45	広報事業	通年	—	4,340	4,340	市補助金 4,340
これまで年4回発行してきた文化情報誌『季刊まちりょく』の掲載媒体をウェブに移行するための準備を進め、新たに運営するウェブサイトを作るとともに、これまでの誌面記事のウェブアーカイブ化を行った。 また、速報性のあるホームページ（アクセス件数223,964件）およびSNSを運営し、事業団の活動や仙台における文化情報を市民に広く発信・紹介したほか、報道機関等への情報提供を随時行った。						
46	市民文化事業団友の会運営	通年	—	2,086	1,179	友の会会費 1,179
市民の芸術・文化鑑賞機会の維持拡大を図るため、友の会組織の運営を継続して実施した。市民文化事業団通信「市民ぶんかレター」による当事業団事業の広報、主催・協力事業におけるチケットの先行及び優待サービスの提供等を行った。年会費1,000円。						
47	事業団事業全体にかかる共通事務	通年	—	1,995	0	
事業全体の調整、新事業の調査・企画、事業評価、職員研修、チケット販売業務などを行った。						

(2)コンクール運営事業

①仙台国際音楽コンクール事業						
令和4年に開催する第8回仙台国際音楽コンクールの準備を進めた。						
48	事務局運営	通年	日立システムズホール仙台他	10,613	10,613	市負担金 10,613
コンクール事務局の運営を行った。						
49	委員会運営	通年	日立システムズホール仙台他	1,124	1,124	市負担金 1,124
組織委員会（3/24）、運営委員会（7/14、12/16、1/20）、企画推進委員会（6/4、2/22）を開催した。						
50	コンクール事業	通年	日立システムズホール仙台他	8,364	8,364	市負担金 2,960 その他収入 5,404
第8回コンクール開催の準備を進めた。また、動画データ等による非公開の予備審査（1月）を実施し、21の国と地域から85名（ヴァイオリン部門43名、ピアノ部門42名）の出場者を決定した。						
51	広報事業	通年	日立システムズホール仙台他	8,188	8,188	市負担金 7,965 その他収入 223
公式ホームページやSNS、プレスリリース等により、第8回コンクール出場者募集広報を展開した。その結果、過去最多となる41の国と地域から573名の申込みがあった。						
チケット発売の延期（当初予定は2/22）に伴い、開催告知を3月中旬より本格的に開始した*。あわせて、仙台市街地や地下鉄駅への広告物の掲出等、開催に向けての準備を進めた。						

52	ボランティア事業	通年	日立システムズホール仙台他	1,907	1,907	市負担金 1,907
	第8回コンクール期間中の活動に向けた準備や研修等を行うボランティア活動の事務局業務を行った。 ①ボランティア新規募集及び活動説明会を開催した。 ②会場運営サポート:コンクール関連事業等の表方運営、コンクール運営のマニュアル整備、勉強会を行った。 ③広報宣伝サポート:オンライン等でのミーティングによりボランティアニュース「コンチェルト」発行、ボランティアブログ運営、出場者用仙台紹介誌「Map for Contestants」及び専用サイトの制作等を行った。 ④出場者サポート:各種研修会を企画したが、中止となった*。第8回コンクール中の活動の検討を行った。 ⑤ホームステイ受入れ:意見交換会を行った。 ⑥ボランティア・プロジェクトチーム:ボランティアプロジェクトとして以下の企画運営を行った。 (1)オンライン企画として、過去の入賞者へのインタビューと演奏映像を合わせた動画を制作し、公式YouTubeチャンネルで配信を行った。 (2)ピアノ部門審査委員長 野平一郎を出演者に迎え、トークコンサートを企画運営した(3/13)。 ⑦ボランティアリーダー:「新規登録ボランティア活動説明会」の企画運営、ボランティア活動・運営の連絡調整を行った。					ボランティア登録:226人 ⑥ (1)視聴者:843人 (2)入場者:179人
53	第7回仙台国際音楽コンクール 最高位入賞者副賞コンサート	通年 (一部中止)	国内各地	2,650	2,650	市負担金 1,684 その他収入等 966
	第7回コンクール最高位入賞者の副賞として、リサイタル出演や国内オーケストラとの共演の機会を提供し、CDの制作と音楽配信を行うこととしていたが、いずれも中止もしくは次年度に延期となった*。 また、令和4年度に実施する副賞の準備を行った。					
54	仙台国際音楽コンクール関連事業	通年 (一部中止)	市内各所	3,601	3,601	市負担金 3,601
	①仙台の音楽文化振興を目的に、第7回コンクール入賞者と仙台市内の市民オーケストラが共演する機会を設けるとともに、小中学校訪問コンサートの開催を予定していたが、海外在住の入賞者を招へいすることができず、中止となった*。 ②オーディションで選ばれた仙台ゆかりの若い音楽家と仙台フィルメンバーによる弦楽五重奏等が共演する街かどコンサート「はばたけコンチェルト」を1/16、2/13、3/20の3回シリーズで実施することとしていたが、Vol.3(3/23)は3/16の地震による被害で会場が使用できなくなり中止した。Vol.3に出演を予定していたソリストの育成の観点から、会場を変え、保護者等関係者に鑑賞者を限定した演奏の場を設けた。 ③第8回コンクール期間に開催する「審査委員によるマスタークラス」の受講生選考会を行った。					②入場者: 1/16 305人 2/13 207人 3/20 中止 ③応募者: ピアノ 36人、ヴァイオリン15人 合格者: ピアノ18人、ヴァイオリン12人

(3)ジュニアオーケストラ運営事業

55	仙台ジュニアオーケストラ運営	通年	仙台銀行ホール イズミティ21 日立システムズホール仙台	22,352	22,352	市負担金 16,772 受講料、入場料等 5,580
	・仙台ジュニアオーケストラを仙台市と共同で主管した。 ・通年の練習等の指導は、仙台フィルハーモニー管弦楽団に委託した。日立システムズホール仙台の休館に伴い、4月から9月までは仙台銀行ホール イズミティ21で、10月からは日立システムズホール仙台に戻り練習を実施した。 ・8/9～11に予定していた夏合宿は中止し、代わりに夏期集中練習を実施した*。 ・下記の演奏会を実施した。 ①5/23に、前年度中止となった「2021スプリングコンサート」*の代替事業として、来場者を団員保護者及びその関係者に限定した「保護者向け発表会」を実施した。 ②10/24に「第29回定期演奏会」を実施した。 ③3/27に「2022スプリングコンサート」を曲目を一部変更(削減)して実施した*。					団員:100人 (3/31時点・在団生77人・卒団生23人) 演奏会入場者: ①272人 ②591人 ③622人

(4)演劇系練習施設運営事業

56	せんだい演劇工房10-BOX運営	通年	演劇工房10-BOX 能-BOX	25,142	25,142	市補助金 21,307 利用料等 3,835
	「試しながらじっくり演劇を作る空間」をコンセプトに、独自のスペース・設備などを弾力的な利用システムにより貸出し、仙台における演劇及びその周辺の表現活動を直接的に支援し、「劇都仙台」各事業との一体的な運営によって、市民の文化芸術活動を支えた。また、民間より寄贈を受けた能舞台を仙台卸商センターの倉庫に移築した、別館「能-BOX」の運営を行った。当年度は、のぞみ苑と共有利用していた旧棟の解体工事が終了。再整備工事に向けた調整と準備作業を行った。 なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、仙台市のガイドラインに基づき、館の取組みと利用者向けのご願い文書の作成・公表、利用後の換気と消毒作業、非接触型体温計の貸出し、消毒用アルコールやペーパータオルを備える等の対策を行った*。					収益事業を含む

(5) 震災メモリアル交流施設運営事業

57	せんだい3.11メモリアル交流館運営	通年	3.11メモリアル交流館	58,588	58,588	市受託料 58,561 受講料 27
仙台市震災復興メモリアルの沿岸部拠点として、平成28年2月に地下鉄東西線荒井駅舎内に開館した「せんだい3.11メモリアル交流館」の運営（(1)来館者の対応 (2)事業の実施 (3)管理業務の一部）を、仙台市まちづくり政策局からの委託事業として行った。「震災の被害や状況を知り、その経験や教訓を学ぶ場」「東部沿岸地域の記憶を残し、継続的に地域再生への力を形成していく場」「東部沿岸地域への案内所・発着点」としての施設機能を持ち、県内外、周辺地域等々、様々な来館者・地域住民が訪れ集う親しみやすい運営に努め、下記の事業を実施した。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、仙台市のガイドラインに基づき臨時休館するとともに、消毒液の設置、定期的な換気、イベント参加者の人数限定（間隔を広げたイス配置）・連絡先入手・検温・消毒等の対策等を行った*。 【企画展（関連企画のツアーやワークショップ含む）】 ①わたしは思い出すー10年間の子育てからさぐる震災のかたち（2/9～7/12）＊臨時休館含む ②パネル展 3.11現場の事実×心の真実（7/20～9/30）＊臨時休館含む ③Voice～仙台市東部沿岸地域の伝承と物語（10/9～2/13） ④おらほのアルバム～縁側で見るまちのオモイデ写真（3/1～6/19） 【その他事業】 ・沿岸部ツアー（「荒浜を歩く」「新浜を歩く」「海辺のふるさとツアー～高砂編」） ・沿岸部の風土・文化を体験する催し（「まめげつつあん」）、ワークショップ（「冬の遊びと手仕事シリーズ」） ・情報発信（「海辺のメモリアル帖」第9号～12号の発行、オリジナルグッズの販売） ・市民・団体・組織との協働（「協力事業」「メモリアルシアター」「3.11現場の事実×心の真実 パネルアウトリーチ活用」）						年間入館者：25,849人 企画展来場者： ①6,722人 ②2,270人 ③7,602人 ④2,925人（3/31時点） 協力事業：47件 共催事業：1件

(6) 芸術文化受託事業

（単位：千円）

58	市制施行132周年記念コンサート	中止	仙台銀行ホール イズミティ21	16	16	市受託料 16
仙台市の市制施行記念式典の一環として開催する仙台フィルハーモニー管弦楽団の演奏会。ソリストには第7回仙台国際音楽コンクールピアノ部門第4位の佐藤元洋を迎えて実施する予定(7/5)だったが、中止となった*。						
59	せんだいメディアテーク震災アーカイブ運営	通年	メディアテーク	15,187	15,187	市受託料 15,187
大震災を受け、震災とその復旧・復興の過程を、市民・専門家・スタッフが協働して記録・発信し、「震災の記録・市民協働アーカイブ」として、整理・保存・利活用する取り組み「3がつ11にちをわすれないためにセンター」を運営した。具体的には、①写真や映像等で記録し、②資料活用に向け、アクセス可能なメタデータなどを整備し保管した。③収集した資料の一部を、ウェブサイトを通じ配信し、④ライブラリーへの配架、上映会や展覧会の開催など、さまざまな形で利活用した。						③ウェブ閲覧数：3,009,896回 ④「星空と路」参加者：3,324人

2. 定款第4条第2号の事業（文化芸術等に関する普及啓発及び情報発信）

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
事業内容						入場者数等・備考

（単位：千円）

① 仙台文学館普及啓発事業

60	特別展・企画展の関連事業	各展示の開催時期	仙台文学館	459	459	市補助金 259 その他 200
特別展・企画展の会期中に、展示テーマに関連する様々なイベントを開催し、文学のより深い魅力を伝えた。 ①写真展「星野道夫展」関連：文学館敷地を利用したワークショップを開催した。 ②「こども文学館 えほんのひろば みちのく妖怪ツアー」関連：作家による妖怪鼎談や参加型ワークショップを開催した。 ③特別展「ぼのぼののたちの杜」関連：「ぼのぼの」の作者いがらしみきお氏と、当館館長佐伯一麦の対談を開催した。 ④企画展「高山樗牛と土井晩翠」関連：作品を味わう朗読と音楽の調べ、リーディングイベントを開催した。						参加者： ①13人 ②88人 ③70人 ④66人
61	ことばの祭典ー短歌・俳句・川柳への誘い	4/1～5/7	仙台文学館	377	377	市補助金 377
例年開催していた合同吟行会の開催方法を変更し、事前応募の形式で実施*。贈呈式（6/19）は中止とし、入賞作の発表や選者講評は、ホームページ上で公開し、館内でパネル展示をして広く周知した*。						応募者：500人
62	文学講座、講演会等の開催	通年	仙台文学館	1,889	1,889	市補助金 380 受講料 1,238 その他 271
文学を豊かに味わう、深く学ぶ、自ら表現するといった主体的なニーズに応え、幅広いテーマによる講座を開講した。 ①佐伯一麦エッセイ講座：館長の作家・佐伯一麦によるエッセイの鑑賞と実作指導の連続講座。通年で7回開催した。 ②仙台文学館ゼミナール：近代文学を読み解くコース、現代文学を探究するコース、古典に親しむコース、表現をみがくコースに加え、古典芸能を楽しむ部門を設け、各講座をそれぞれ3～5回連続で開催した。						参加者： ①131人 ②1,561人
63	教育機関・関係者との連携事業	通年	仙台文学館	0	0	
県内高等学校の文芸部の活動を支援するほか、図書室や国語を担当する教員への研修機会の提供、小中高を通しての調べ学習への協力等を行った。また団体利用向けに、常設展示にからめた内容のワークシートの作成を行った。						対応数：5件

64	学芸員出前講座	通年	—	0	0	
	市内を中心に近隣の学校や市民センターなどに学芸員が出向き、宮城の文学やこれまでの企画展で取り上げた文学者についての講座を行った。					講座数:11件
65	情報誌の発行	通年	—	931	931	市補助金 931
	文学に関する話題を幅広く発信していく情報誌の発行を継続した。文学者からの寄稿のほか、仙台の新しい文学を取り上げた企画等内容の充実を図った。					
66	こどもの本の部屋の運営	通年	仙台文学館	0	0	
	絵本を中心にこどもの本を自由に読んでもらうコーナー。コロナ禍で部屋自体は閉室しているが、情報コーナーの一部を使い運営した。文学館の展示観覧は難しい小さなこどもたちも、保護者とともに楽しめるように、本の入れ替えやポスターの掲示なども行い活性化を図った。					
67	文学館友の会の支援	通年	—	0	0	
	会の事務局を担当し、文学館との共催事業や読書会の開催、会報の発行などを実施した。					
68	出版物等の販売	通年	—	379	379	市補助金 231 刊行物販売 68 その他 80
	佐伯一麦エッセイ実作鑑賞講座、小池光短歌講座の記録集を制作・販売した。また、平成16年度に発行した文学館選書『天地有情』の他、企画展関連の物品も館内で継続して販売した。					

3.定款第4条第5号の事業(文化芸術等に関する生涯学習の支援)

番号	事業名		期 日	会 場	支出	収入	収入備考
	事業内容						入場者数等見込・備考
(単位:千円)							

①せんだいメディアテーク 展覧会等総合事業						
69	せんだい・アート・ノード・プロジェクト	通年	メディアテーク	22,266	22,266	市補助金 22,266
	優れた現代アートのもつ発見性、吸引力、発信力を取り込みながら、市民とともに地域が抱える課題に向き合うアートプロジェクトを展開することで、まちの魅力と人々の活気を引き出し、文化都市仙台を発信する。「川俣正/仙台インプログレス」などのプロジェクト、人材育成、市民啓発のための「TALK」などの事業とこれらに伴う情報発信やアーカイブを行った。 ①川俣正/仙台インプログレス:令和2年度に制作した木道に隣接したエリアに「新浜タワー」を制作した。また、「仙台インプログレス」の記録や「新浜タワー」の模型などの展示を行った。 ②定禅寺こどもプロジェクト:西公園エリアなどで事業実施のためのリサーチを行った。 ③インタビューズー:文化活動者による配信モデルとしてオンライン番組を配信した(9月～3月、10回)。 ④ワケあり雑がみ部:実際に集まる活動とオンラインを活用した活動を行った(6月～12月、12回)。 ⑤コミュニケーション:TALKの実施(9月～3月に9回)、ジャーナルの発行(3月)を行った。					参加者: 26,811人
70	展覧会事業「ナラティブの修復」	11/3～1/9	メディアテーク	19,760	19,760	市補助金 7,708 入場料 1,112 助成金 10,940
	主題「ナラティブの修復」を象徴する事業として、アーティストと協働し、今日的な社会の課題や哲学的な問いを表現によって投げかける展覧会。地域社会の過去と現在を読み解く多様な「物語り」の技法を、美術表現として探求している作家たちを紹介した。主として仙台を拠点に活動している表現者を選定し、震災から10年が経過した東北と、せんだいメディアテークの開館から20年目となる仙台を展望した。 出展作家:阿部明子、磯崎未菜、菊池聡太郎、工藤夏海、小森はるか+瀬尾夏美、是恒さくら、佐々瞬、佐藤徳政、伊達伸明、ダダカン連					入場者:4,310人 関連企画参加者:165人
71	スタジオ情報発信/地域文化アーカイブ	通年	メディアテーク	1,798	1,798	市補助金 298 助成金 1,500
	市民間の交流、対話を促進するための対話の場/機会/メディアを用意した。 ＜スタジオ情報発信＞ 市民力を醸成し、市民の主體的な社会参画を文化面から活性化していくことを目指して、様々な市民文化活動と協働した。 映像を囲む対話の場づくり「映像サロン」のほか、オンラインでの「てつがくカフェ」や在来作物研究会の講演会などを実施した。 ＜地域文化アーカイブ＞ 市民による自発的な地域文化財のデジタル化により、保存、活用を促す事業を実施した。成果物は、メディアテークに保管され、ライブラリーへの配架やウェブサイト等での発信などにより、広く市民に活用された。また、それらをもとにした小規模な展示などを行い、仙台市域のさまざまな文化活動へのより広く深い市民の関心を促した。					参加者: 17,594人

72	発信・施設活用推進	通年	メディアテーク	4,073	4,073	市補助金 4,032 刊行物等販売 41
各種団体との連携を通じ地域における役割を担うとともに、市民図書館を含めたメディアテークの総合的な情報アクセス機能の活性を促した。 ①バリアフリー・デザイン事業:目や耳の不自由な方の主体的な情報アクセスを促進するため、バリアフリー資料の展示や、手話による各種翻訳動画の制作・公開、手話通訳・要約筆記つき講演会など、幅広い情報保障に取り組んだ。また手話による読み聞かせ会の実施のほか、読み聞かせ手話ボランティアの養成講座、目の不自由な方との鑑賞会を実施した。 ②館長発信事業:「アートミーツケア学会2021年度総会・大会」を共催し、講演会などのほか、館長が選定した映画のバリアフリー上映(音声解説・日本語字幕・託児サービス付き)を行った。 ③地域文化連携・施設活用推進:各種団体との協働や連携・ネットワークを用い、地域におけるメディアテークの役割を担いつつ、オープンスクエア、ギャラリー、シアター、ライブラリーなど館全体の機能を活かしたイベントや展示、上映会など多様な活用事例を示した。市民図書館とのイベント等の各種連携を通じ、より広い関心を集め、交流を促進する機会をつくった。 また、取り組みが市民に届くよう定期的な広報、啓発、情報発信に努めた。						参加者: 7,935人

4.定款第4条第1号、第2号、第3号、第4号、第5号及び第6号の事業(市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進、資料の収集、保管及び調査研究、生涯学習の支援、文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
事業内容						入場者数等見込・備考

(単位:千円)

(1)仙台市歴史民俗資料館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

73	仙台市歴史民俗資料館 管理運営	通年	歴史民俗資料館	62,690	62,690	市指定管理料 62,690
歴史や民俗に関する展示等を行い、学校教育や生涯学習活動を支援する場所として、仙台市有形文化財である本館建物の維持管理を行った。令和3年2月の地震による建物内部の破損個所の復旧工事のため5/12から7/20まで休館した。なお、仙台市のガイドラインに基づき臨時休館(3/26～5/11、8/30～9/12)したほか、開館時もガイドラインに沿った施設管理・来館者対応等に取り組み、消毒液の設置と施設内の消毒強化、遊具や学習室の利用停止、体験学習の時間と人数制限を継続するなど管理運営にあたった*。						
74	仙台市歴史民俗資料館 常設展示	通年	歴史民俗資料館	552	552	市指定管理料 552
「仙台地方の農具と農家の暮らし」「仙台 町場の暮らし」「旧歩兵第四連隊コーナー」「体験学習室」に加え、「仙台の正月」「ひなまつり」等のミニ展示をロビー及び展示室で展示紹介し、また、震災関連展示を行った。						年間入館者: 9,229人

①特別展・企画展及び関連事業

75	企画展「せんだい職業づくし」	7/21～8/29	歴史民俗資料館	214	214	市指定管理料 214
職業とは生計を立てるための仕事のことで、日常的に従事する業務のことをさす。本企画展では仙台地方を中心に、工業、商業、サービス業、伝統工芸など近代以降の地域産業における様々な職業の歴史を取り上げ、道具や工程、製品、店頭風景、絵巻書などの資料を通して、職業の歴史と文化を考える展示を開催した。なお、臨時休館に伴い会期を変更した(当初会期4/24～7/4)*。						入館者:1,174人
76	企画展「学都と杜の都～仙台の高等教育と町の文化～」	9/14～11/28	歴史民俗資料館	569	569	市指定管理料 569
令和3年度は明治5年(1872年)の学制公布から150周年を迎えることから、明治時代後期以降学都仙台と称される高等教育機関や中等教育機関、女学校など隆盛した近代仙台の教育文化の変遷をたどる内容を展示した。また、杜の都の特色である祭り、芸能などの文化もあわせて紹介した。なお、臨時休館に伴い会期を変更した(当初会期7/17～11/7)*。						入館者:3,662人
77	特別展「和の道具～くらしの知恵と工夫～」	12/11～4/17	歴史民俗資料館	1,416	1,416	市指定管理料 1,416
衣食住など電化する以前の日常のくらしで使われていた台所の道具や、居間で使われていた道具の使い方などを紹介し、知恵と工夫をめぐらせていたかつてのくらしを振り返る展示内容とした。なお、臨時休館に伴い会期を変更した(当初会期11/20～4/17)*。						入館者:3,462人 (3/31時点)
78	講座・体験イベント等	通年	歴史民俗資料館	6	6	市指定管理料 6
①資料館サポーター養成講座(7月～3月):「資料館の魅力について～展示・収集・調査研究・教育普及～」のタイトルで、資料館の事業活動や資料の活用方法を考えながら、民俗文化財や歴史資料の意義をとらえ、参加者のさまざまな活動につながっていくことをめざして開催を予定したが中止した*。 ②子ども講座(7/24、1/16、3/12、3/26):おもに小学生を対象に、仙台地方の歴史や民俗をわかりやすく解説するために紙しばいの講座を開催した。 ③ゴールデンウィーク「おもしろ昔たいけん」(4/24～5/5の間の8日間):なつかしい玩具「竹とんぼ、水鉄砲」や、生活用具「石臼ひき」、こままわし、フラフープ、ホッピングなどの遊びを体験する予定であったが中止した*。 ④クイズラリー(夏7/21～8/25・冬12/18～1/30):クイズやパズル形式での自主見学学習を実施した。 ⑤らんけん資料館「れきみんバックヤード・ツアー」(8/7、8/11、10/9、2/26):展示室、収蔵庫や資料整理室など普段見ることができない資料館のバックヤードを学芸員が解説案内する見学会を開催した。 ⑥ホームムービーの日(10/16):家庭に埋もれているフィルムを持ち寄ってもらい、地域の貴重な映像を発掘、公開した。						参加者: ①中止* ②31人 ③中止* ④312人 ⑤37人 ⑥16人

79	資料館だより等の発行(その他の事業)	通年	歴史民俗資料館	24	24	市指定管理料 24
	今年度より資料館だよりはHPで公開する形式とした。また、資料館の講座や体験学習などイベントチラシを作成し関連施設に発送周知する予定だったが、今年度は館内での配布にとどめた*。					
80	歴史民俗資料の収集・保管	通年	歴史民俗資料館	1,772	1,772	市指定管理料 1,772
	資料の有効活用を図るための整理・修復作業を行うとともに、資料台帳のデジタル化を推進した。また、今年度は「資料集」第20冊として日清戦争にともなう台湾での戦いをまとめた写真集である「征台軍凱旋祈念帖」を刊行した。					
81	調査報告書等の発行	通年	歴史民俗資料館	889	889	市指定管理料 889
	仙台地域を中心に民俗(民間伝承)、近現代の庶民生活に係る「聞き書き」等の調査を実施し、「調査報告書」第40集にまとめ、刊行した。					
82	学校教育との連携	通年	歴史民俗資料館	0	0	
	学校教育との連携促進を目的として実施する事業。小学校3年生社会科の学習および総合的な学習の際、仙台市内および近郊の学校が見学に訪れ、石臼挽き体験と行灯体験のべ373回の体験学習を行った。8月(8/17～8/21)には、学芸員資格の取得を目指す大学生に必要な実務実習を行い、11～12月には、近隣中学校より職場体験を受け入れた。					利用学習: 48校3,126人 博物館実務実習: 4大学10人 職場体験:3校6人

(2) 仙台市富沢遺跡保存館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

83	仙台市富沢遺跡保存館 管理運営	通年	富沢遺跡保存館	93,690	93,690	市指定管理料 93,690
	旧石器時代に関連する展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習活動を支援する場として、富沢遺跡保存館を維持管理した。なお、新型コロナウイルス感染症対策として、引き続き館内消毒の徹底や来館者にマスク着用、見学時の社会的距離の確保等をお願いした。また、スコープを覗く接触型展示の使用停止、休憩スペースの椅子数削減、ボランティア活動のうち対面活動の制限等を行ったほか、3/26～5/11、8/31～9/12は臨時休館となった*。					
84	仙台市富沢遺跡保存館 常設展示	通年	富沢遺跡保存館	13,910	13,910	市指定管理料 13,910
	地下1階の富沢遺跡の発掘調査面の展示、1階での調査結果の展示、及び「氷河期の森」(植生復元)の野外展示を総合的に行った。					
①特別展・企画展						
85	企画展「仙台の遺跡めぐり 富沢からのぞく仙台の歴史」	5/12～7/18	富沢遺跡保存館	28	28	市指定管理料 28
	近年、仙台市内の発掘調査が進み、多くの調査成果が蓄積されている。春季企画展は、仙台市内の遺跡から出土した資料を中心に、身近な文化財を紹介するシリーズとして開催してきた。今回は仙台の旧石器時代から江戸時代にかけての代表的な遺跡と、各時代の富沢のようすを災害史とからめながら紹介した(当初会期4/23～6/27*)。					入館者:3,272人
86	企画展「石っていろいろ！」	1/21～3/13	富沢遺跡保存館	110	110	市指定管理料 110
	東北大学総合学術博物館と共催し、仙台の様々な分野をテーマとする12のミュージアムが収蔵する多種多様な“石”にまつわる資料の紹介を行った(当初会期7/23～10/3*)。					入館者:4,411人
87	企画展「発掘！食の百貨店」	10/29～12/19	富沢遺跡保存館	1,098	1,098	市指定管理料 1,098
	特別企画展の予定であったが、展示規模を縮小して、通常企画展として実施した。 いま私たちが食べている食材は、いつ頃から利用されるようになったのか、どんな料理法があったのか等、考古資料に残された手がかりをもとに、現在につながる食を紹介した。					入館者:3,857人
88	企画展「つなぐ・つながる富沢遺跡 ～につぼんのミュージアムめぐり～」	8/6～10/3	富沢遺跡保存館	37	37	市指定管理料 37
	富沢遺跡保存館と共通点のある博物館という視点で、日本各地に所在するユニークな博物館17施設を取り上げ、当館が持つ展示施設としての多面的特徴、さまざまな視点から楽しめる展示要素を紹介した。あわせて、コロナ後に旅行先として楽しめる博物館を提案する機会となるよう、各館の情報発信を行った(当初会期1/22～3/13*)。					入館者:3,467人

89	講座・体験イベント・ボランティア事業等	通年 (一部中止・延期・変更)	富沢遺跡保存館	1,063	1,063	市指定管理料 1,063
	①地底の森フェスタ2021(10/11):内容変更し「体験！発見！地底の森」として実施*。10月9・10・11・12日の4日間に日程を分散させ、参加者数を減らして日替わりで体験活動を行った。基本的に事前申込制で実施した。 ②考古学講座(2/19、3/12):考古学や環境に関するテーマについて最新の研究成果を紹介する、一般市民を対象とした講座で会場とオンライン併用で行った*。 ・2/19「年輪の酸素同位体比を用いた年代測定と気候復元について」講師:中塚武(名古屋大学) ・3/12「黒曜石が明らかにするハンター達の旅」講師:池谷信之(明治大学黒曜石研究センター) ③たのしい地底の森教室(通年):体験型イベントを中心として、企画展関連イベントや地底の森ミュージアムの特性や魅力を多様な観点から紹介する事業として行った。日・祝を中心に毎月1～2回程度実施した。 ④利用学習事業(6月～3月):小・中学校(小学校5・6年生及び中学校1年生)を対象に、主に社会科学習の一環として当館を効果的に活用して授業を実施した。授業内容は館内外の見学と石器使用等の体験学習。実施後、実践内容は当館ホームページで公開し、次年度の活動に活かしていく。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から分館・縄文の森広場と連携して行った。 ⑤市民文化財研究員育成(通年):考古学に対する市民の学習活動を支援するため、公募による5名を対象に1年間にわたり週1回 当館学芸員が支援する活動日を設けた。活動成果(4名分)は活動報告書にまとめ、当館ホームページに公開した。 ⑥ボランティア育成(通年):市民文化財研究員修了者の中の希望者及び公募による申込者に対して、展示解説やイベント補助等のボランティア活動に資するよう、養成講座・研修会・自主研修活動等の支援を行った。 ⑦地域や大学との連携:地域のイベントに参画したり、学生ボランティアとの協働事業を行う等、地域や大学との連携を強化するための活動を実施した。 ⑧富沢ゼミ:富沢遺跡周辺を中心に、仙台市内や宮城県内の遺跡や文化財等を紹介する講座。1回目は会場のみ、2回目は会場とオンライン併用で行った。 ・7/30「進化する細野修一の復元画ー未知の絵画世界への案内人」講師:斎野裕彦(仙台市文化財課) ・12/11「2万年の軌跡」講師:佐藤祐輔(縄文の森広場)					参加者等: ①のべ141人 ②2/19 70人 (うち会場26人) 3/12 72人 (うち会場29人) ③のべ463人(全20回のうち中止8回*) ④13校884人 ⑤4人修了 ⑥登録63人 (のべ914時間、430人活動) 実技研修(7/19)26人 育成講座(11/12)31人、(3/24)10人 ⑦学生ボランティア登録6人(活動実績2回2人) ⑧7/30 17人 12/11 62人(うち会場29人)
90	研究報告の刊行	通年	富沢遺跡保存館	263	263	市指定管理料 263
	25年を経過した富沢遺跡の保存状態の評価とこれまでの保存処理作業の概要をまとめて報告書に掲載した。					
91	ポスター・図録等の印刷・刊行	通年	富沢遺跡保存館	518	518	市指定管理料 518
	4回分の企画展ポスター・チラシを作成した。なお、特別企画展規模縮小に伴い、展示図録は作成せずパンフレットを作成した。					
92	資料の収集・保管	通年	富沢遺跡保存館	0	0	市指定管理料 0
	仙台市教育委員会で所蔵している旧石器時代に関する資料等を借用・保管し、適切な管理を行い館の活動に活用した。					
93	遺構の各種分析調査	通年	富沢遺跡保存館	360	360	市指定管理料 360
	保存公開している遺跡の現状を定量的に把握することを目的とし、継続測定中の地下水位・温湿度・土壌含水率等の結果を統合して解析した。併せて館創設時の担当職員を招聘し、遺跡の現状を評価してもらう保存処理検討会拡大版を11月に開催し、その成果を研究報告書に掲載した。					
94	次年度事業準備・その他	通年	富沢遺跡保存館	104	104	市指定管理料 104
	令和4年度の特別企画展に向けた資料調査や出展交渉、及びその他の企画展についての資料調査等を行った。また開館から25年が経過し、常設展の内容が最新の研究成果を反映していないところが増えてきており、展示内容や方法を検討するための調査研究も実施した。					
②地域との連携事業						
95	運営懇談会	通年	富沢遺跡保存館	0	0	市指定管理料 0
	富沢遺跡保存館の運営に理解と協力を得るために事業を紹介し、あわせて館の運営や事業に活かすことを目的に意見やニーズの聴取を行ってきた。今年度はコロナ後の学校との連携強化を図るため、長町南小学校(1/13)と鹿野小学校(1/26)に聞き取り調査を行った。					

(3) 仙台市縄文の森広場管理運営・調査研究・普及啓発事業

96	仙台市縄文の森広場 管理運営	通年	縄文の森広場	47,363	47,363	市指定管理料 47,363
	縄文時代に関連する体験活動や展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習を支援する場として、縄文の森広場の維持管理を行った。3/26~5/11、8/31~9/12は臨時休館とした*。また、仙台市のガイドラインに基づき、復元住居の利用中止や2階展望ラウンジなどの休憩スペースの利用制限などを行った*。					
97	仙台市縄文の森広場 常設展示	通年	縄文の森広場	16,605	16,605	市指定管理料 16,605
	施設内展示及び野外展示を適正な状態に保ち、特に、屋外展示の復元住居や植栽は、縄文時代の雰囲気伝える重要な展示品として、適切な維持管理や環境整備を行った。ハンズオンの展示物については撤去した*。					

98	コーナー展示	通年	縄文の森広場	99	99	市指定管理料99
宮城県内を含む東北地方の縄文時代の遺跡から発見された遺構と遺物を通して、縄文時代の人々の暮らしについて紹介した。 ①「東北の縄文遺跡－南相馬市中才遺跡」(3/13～6/13):会期を延長して実施* ②「東北の縄文遺跡－仙台市川前遺跡」(7/31～10/17) ③「東北の縄文遺跡－仙台市山田上ノ台遺跡」(12/1～2/13):開館15周年記念事業として実施 ④「東北の縄文遺跡－3Dでみる下ノ内浦遺跡の縄文土器」(3/19～)						
99	縄文まつり	8/9、10/23	縄文の森広場	580	580	市指定管理料 580
季節ごとに開催する自由参加イベント。計2回実施し、その日だけの体験コーナーや音楽演奏などを実施した。令和3年度の春(5/9)・冬まつり(2/6)は中止とした*。						参加者:149人 (夏 74人、秋 75人 春・冬 中止)
100	普及啓発事業	通年 (一部中止)	縄文の森広場	324	324	市指定管理料324
①団体予約:子ども会、町内会等の各種団体対象の展示解説や縄文体験。 ②随時体験:来館者を対象とし、様々な縄文体験メニューを提供。自宅でも体験できるように体験材料の持ち帰りを開始した*。 ③体験講座:各種体験教室を開催した。 (1)週末体験講座(5/1、5/30、9/12、11/14、1/23、3/6)※5/1、9/12は中止* (2)夏休み子ども考古学教室(8/21) (3)発掘調査体験教室(10/13、10/17、12/5)※10/17は中止* (4)縄文の知恵と技を学ぶ(9/5、11/7)※9/5は中止* ④特別イベント:春(3/26)・夏(7/31)・秋(10/10)・冬(12/25)の長期休業期間にあわせた、誰でも楽しめる体験イベント等を開催した。						①49件 ③ (1)63人 (2)17人 (3)18人 (4)24人 ④352人
101	縄文の森講座	12月～2月	縄文の森広場	383	383	市指定管理料 383
縄文時代研究について各分野の第一人者による講演会。毎回会場30名・オンライン80名を対象とした。 第1・2回は、コーナー展の内容に合わせて実施。 ①5/29 川田強(南相馬市教育委員会)「南相馬市中才・鷺内遺跡の縄文時代後・晩期の発掘成果について」、高橋満(福島県立博物館)「中才遺跡出土の製塩土器を考える」 ②9/20 佐藤祐輔(仙台市縄文の森広場)「縄文時代終わりごろの仙台」 ③2/20 仙台市文化財課職員「仙台発掘最前線!!2021」						①51人(会場9人、オンライン42人) ②36人(会場16人、オンライン20人) ③46人(会場20人、オンライン26人)
102	ボランティア育成事業	通年	縄文の森広場	30	30	市指定管理料 30
当館でのボランティア活動を新たに希望される方の養成と、既にボランティアとして登録されている方のスキルアップを兼ねて行った。各種体験活動の補助、展示についてのより分かりやすい説明などのための研修事業。来館者との対面での活動自粛などを行ったほか、ボランティア定例会のオンライン開催などコロナ対策を強化した*。						
①学校との連携事業						
103	学校教育との連携	8月、 10月～12月	縄文の森広場	7	7	市指定管理料 7
学校教育との連携促進を目的として実施する事業。8月には、市内小・中学校の教職員を対象とした、当館の概要説明や体験活動事業を周知するために、教職員利用研修会及び機関研修を実施した。10月～11月には、学芸員資格取得を目指す大学生が、必要単位を取得するために必要な博物館実務実習を実施した。10月～12月には、近隣中学校の職場体験を受け入れた。						機関研修:2人 博物館実務実習:3人 (2大学) 職場体験:16人(3校)
104	利用学習事業	通年	縄文の森広場	2,147	2,147	市指定管理料2,147
小・中学校(小学校5・6年生及び中学校1年生)を対象に、主に社会科学習の一環として当館を効果的に活用する利用学習を実施した。当館利用推進を目的として、授業の実践校に交通費の補助を行い、学校側との綿密な連携のもとに、館内外の見学や各種の体験学習を行った。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から本館・地底の森ミュージアムの同事業と連携して行った。						参加者:1,236人(18校)
②地域との連携事業						
105	運営懇談会	中止	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
縄文の森広場利用者や地域の方々等に出席いただき、当館の活動を紹介し理解を得ること、またその意見やニーズを把握し、当館の運営に役立てることを目的とし、地域と連携した今後の事業を模索する場として開催しているが、令和3年度は開催を中止とした*。						
106	野外展示「縄文の森」の多目的活用 「森でみつける『じょうもん』」	中止	縄文の森広場 太白山自然観察の森 太白小学校	0	0	市指定管理料 0
野外展示「縄文の森」の利活用の幅をひろげるために、近隣住民・小学校・地域の団体などと連携を図りながら、専門家の指導を受けて植生環境の充実を図る事業。太白小学校1年生を対象として、生育するクリなどを採取し育てる事業を行ってきた。令和3年度は中止とした*。						

③調査研究事業						
107	体験活動メニューの調査研究	通年	縄文の森広場	29	29	市指定管理料 29
	各種研究成果や実験考古学の成果を生かして、新たな縄文体験メニューやイベントの企画・開発、学校教育との連携事業の推進に取り組んだ。					
108	復元住居の経年変化及び維持管理に関する研究調査	通年	縄文の森広場	0	0	
	公開している復元住居の経年変化を把握し、当時の生活実態に合わせた効果的な維持管理の方法を研究する。復元住居の現状確認と今後の維持管理法の方向性を検討し、土葺き堅穴住居の上屋構造に関する調査などを行った。					
109	ボランティアスタッフとの共同調査研究	通年	縄文の森広場	0	0	
	当館が実施している各種事業の内容深化、あるいは新規イベントの開発を目的として、ボランティアスタッフと共同で調査研究活動を実施した。					
110	次年度コーナー展資料調査	中止 (通年)	縄文の森広場	0	0	
	次年度に予定している展示の内容及び展示と連動した体験活動を検討するために、資料調査を実施しているが、令和4年度は、館所蔵もしくは仙台市所蔵資料での展示を予定しているため、調査は行っていない*。					
111	資料の収集・保管事業	通年	縄文の森広場	50	50	指定管理料50
	仙台市で所蔵している山田上ノ台遺跡及び縄文時代に関する資料を借用保管し、適切な管理を行った。また、事業活動の充実を図るため、関連する図書資料等の収集を行った。					

(4) 仙台文学館管理運営・調査研究・普及啓発事業

112	仙台文学館 管理運営	通年	仙台文学館	180,205	180,205	市指定管理料 180,205
	文学に関する展示などを実施するとともに、文学活動の場や資料の提供を行い、学校教育活動や生涯学習活動を支援することを目的に、入館者の利便に供する施設の管理運営を行った。仙台市のガイドラインに従い臨時休館し(3/26～5/11、8/30～9/13)、再開館後は、利用者にマスクの着用など感染対策を促す案内の掲出、サーマルカメラでの検温、消毒液の配置、飛沫防止パネルの設置、情報コーナーの交流スペースの席数半減などの感染対策を継続して行った*。					収益事業を含む
113	仙台文学館 常設展示	通年	仙台文学館	0	0	
	明治から現代の仙台・宮城ゆかりの文学をテーマを設けて紹介した。資料収集の状況に応じて、特集コーナーで石川善助や土井八枝に関する資料を紹介したり、ゆかりの作家の新刊を紹介するなどし、新しい情報の提供を行った。					

①特別展・企画展

114	写真展「星野道夫 悠久の時を旅する」	5/12～6/27	仙台文学館	1,728	1,728	市指定管理料 1,728
	写真家で詩人の星野道夫の写真展を開催。星野道夫はアラスカの大自然に生きる人間と野生動物、そして語り継がれる神話に魅せられた写真家で、不慮の事故で亡くなるまでアラスカの写真を撮り続けた人物。本展では20歳のときに初めて足を踏み入れたアラスカの村の記録から、亡くなる直前まで撮影していたロシアのカムチャッカ半島での写真など、自身のこともともに紹介し、「自然と人とのかかわり」を追い続けたその軌跡を追った。なお、臨時休館に伴い会期を変更した(当初会期4/17～6/27)*。					観覧者:5,685人
115	夏休み子ども文学館えほんのひろば みちのく妖怪ツアー	7/17～8/22	仙台文学館	1,251	1,251	市指定管理料 1,251
	令和2年度開催を見送った、宮城県在住の作家・佐々木ひとみ、野泉マヤ、堀米薫による児童書『みちのく妖怪ツアー』の展示を開催した。本作は東北の伝承や食文化に触れながら東北各地の妖怪の話が展開する作品。展示では全6話を6つのコーナーに分けてそれぞれ紹介した。妖怪登場シーンを再現したフォトスポットを設けて物語を体感できるようにしたり、作品世界への理解が深まるようワークシートを作成するなど工夫をこらした。					観覧者:9,485人
116	特別展「ぼのぼの連載35周年記念 ぼのぼのたちの杜」	9/18～11/28	仙台文学館	2,767	2,767	市指定管理料 2,767
	在仙の漫画家・いがらしみきおの代表作「ぼのぼの」の連載35年を記念して開催した。主人公のラッコ「ぼのぼの」はじめ、「シマリスくん」や「アライグマくん」など個性的なキャラクターが繰り広げる日常には、ぼのぼのとしたりやり取りから、哲学的な思想、不条理なギャグなど、さまざまな要素がちりばめられている。本作品の魅力を、原画や、作者自身のコメントを合わせながら、様々な切り口で紹介した。					観覧者:4,343人
追加	仙台市名誉市民 杉村惇作品展 存在と空間 の伝説 第4章	12/8～12/23	仙台文学館	0	0	市指定管理料 0
	例年の開催会場である仙台市役所本庁舎ギャラリーホール休止に伴い、仙台市からの展示追加実施の依頼により、仙台市名誉市民の杉村惇の作品展を開催した。会期中には杉村豊のギャラリートークを行った。					観覧者:325人

117	企画展「高山樗牛と土井晩翠『瞑想の松』物語」	1/15～3/21	仙台文学館	1,476	1,476	市指定管理料 1,476
	文芸評論家で思想家の高山樗牛と、「荒城の月」で知られ、日本近代詩に名を刻む詩人・土井晩翠。東京帝国大学在学中に「滝口入道」を発表し、卒業後は『帝国文学』『太陽』などの編集にあたった樗牛は、晩翠が詩人として世に出る道筋をつけた人物だった。旧制二高・東京帝国大学の先輩・後輩だった二人の知られざるエピソードを取り上げながら、仙台の街に刻まれた二人にゆかりある地を巡り、交流の軌跡を紹介した。					観覧者:1,271人
118	新春ロビー展「100万人の年賀状展」	1/10～2/13	仙台文学館	170	170	市指定管理料 170
	広く一般から募集した年賀状や、ゆかりの文学者から寄せられた年賀状など、733点を展示した。					観覧者:2,894人
119	資料の収集・保管	通年	仙台文学館	2,424	2,424	市指定管理料 2,424
	宮城・仙台ゆかりの文学者・文学作品に関する資料の収集を行った。収蔵した資料の適切な整理とコンピュータを活用した資料管理を行った。また、必要に応じて資料の修復や複製の制作を行った。					
120	次年度事業準備・その他	通年	仙台文学館	1,647	1,647	市指定管理料 1,647
	令和4年春の特別展の準備を進めた。					

5.定款第4条第6号の事業(文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
	事業内容					備考

(単位:千円)

(1)仙台市青年文化センター管理運営事業

121	仙台市青年文化センター管理運営	通年	日立システムズホール仙台	321,407	321,407	市指定管理料 318,379 その他 3,028
	平成29年度から5年間の指定管理を受け、その最終年となる当年度は次のとおり施設運営を行なった。 (1)利用者が安心・安全に利用できるよう、保守点検等をはじめとする各種点検業務を強化するとともに、火災や震災等の災害に対してより実践的に対処できる防災体制について、不断の見直しを行いながら取り組んだ。 (2)利用者と積極的なコミュニケーションを図り、利用に関する的確なアドバイスをを行い利用者の増加を目指した。 (3)施設利用や芸術文化に関するタイムリーな情報を広く提供するなど広報を強化した。 (4)市民の文化活動の拠点施設及び劇場法にうたう劇場・音楽堂としての役割を担うことを認識し、地元で活動する文化芸術団体やアーティストなどの地域資源を有効に活用するなど工夫しながら各種事業を展開し、より市民に親しまれる施設づくりを進めた。 (5)利用者アンケートの実施や意見箱返答コーナーの設置も継続するなど意見集約を積極的に行いながら業務改善に努めた。 (6)大規模改修についてはこれまで培った管理運営の知識と経験をいかしながら、施設設置者とともに漏れのない対応を行った。また、工事体制に対し、進捗にあわせた連携・協力などを積極的に行うなど、引き続きよりよい施設づくりに貢献した。 (7)よりお客様にご満足いただける施設を目指し、リニューアルオープンに際し改修ポイントを当館のウェブサイト情報発信した。 (8)楽都仙台や劇都仙台的拠点施設として事業の運営サポートを行った。 (9)新型コロナウイルス感染症対策として、貸出備品の消毒など基本的対応の継続に加え、全利用者に感染防止策チェックリストを渡し防止対策への取組みを促した*。					年間利用者:82,539人 収益事業を含む

(2)仙台市泉文化創造センター管理運営事業

122	仙台市泉文化創造センター管理運営	通年	仙台銀行ホール イズミティ21	124,083	124,083	市指定管理料 124,083
	「仙台市市民文化事業団・東北共立・石井ビル管理グループ」として令和2年度から5年間の指定管理を受け、その2年目となる当年度は次のとおり施設運営を行った。 (1)市民の芸術文化の振興と育成の場を提供し、自主的な文化活動の拠点となるよう、市民が利用しやすい開かれた施設運営を行った。 (2)施設利用や公演実施に関する相談に応じ、的確な情報や助言を提供するなど、利用者への支援を充実させた。 (3)適切で丁寧な接客業務を行うと共に、施設貸出しに際してはニーズに応じて弾力的な取扱いも検討し、更にアンケートや「お客様の声」などを参考に、利用者の立場に立った施設運営を行った。 (4)施設の安全な維持管理に努め、各種災害に備えた防災体制をより整備し、省エネルギー、バリアフリーへの取組みを引き続き推進した。 (5)施設を活性化させる事業として、市民との協働によるロビーイベント、地元音楽家監修によるコンサートシリーズ、泉中央地区プレイガイド事業を行った。 (6)新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、仙台市のガイドラインに基づき、利用者に感染拡大防止対策実施の働きかけや、手指消毒液の設置、施設内換気の強化、サーマルカメラやアクリルパーテーション等の備品貸出を行ったほか、全館休館に伴う利用自粛要請、施設利用取消や使用料還付手続き、減免手続きなどの対応を行った*。 (7)令和4年度からの施設大規模改修のための各種打合せ対応のほか、休館中の臨時事務所、倉庫物件選定と契約、備品等移設にかかる業者選定などの業務を行った。					年間利用者:130,492人 収益事業を含む

(3) せんだいメディアテーク管理運営事業

123	せんだいメディアテーク 管理運営	通年	メディアテーク	585,300	585,300	市指定管理料 585,300
	人々がさまざまなメディアを通じて自由に情報のやりとりを行う生涯学習の場として、また美術や映像文化などを中心とする芸術文化活動の拠点として、施設・設備の適切な管理運営に努めた。メディアを活用した生涯学習活動及び文化活動にかかる情報・資料の収集、調査研究及び普及啓発、視聴覚障害者に対する情報活動の支援を行った。また、美術・映像に係わる情報・資料の収集及び提供並びに展覧会、講習会その他の催しを行ったほか、展示や上映のための施設の提供を行った。事業としては協働事業を引き続き発展させ、市民参加型事業を積極的に進めた。また、博物館連携ネットワーク「仙台・宮城ミュージアムアライアンス」事務局業務を仙台市教育委員会と共同で担うとともに、学校との連携を図り次世代の育成に取り組んだ。 年度当初は新型コロナウイルスによる緊急事態宣言を受け、全館が臨時休館となったが、自粛要請や取消に伴う事務手続きなどの対応を継続した。併せて感染拡大防止策としては、館内の表示やリスク低下を求め、施設利用者と同意書を交わすなど日常的に意識をもって、利用者が安心して安全に利用できるよう感染防止に努めた*。 令和4年度から5年間の指定管理者として申請を行い、仙台市教育委員会から指定を受けた。また、令和4年度の照明等改修工事に向け、関係各所と連携をもって準備を進めた。					年間利用者:117,281人 収益事業を含む
124	せんだいメディアテーク ライブラリー運営・美術映像文化推進事業	通年	メディアテーク	7,029	7,029	市指定管理料 7,029
	映像音響ライブラリー、視聴覚教材ライブラリー、視聴覚障害者情報ライブラリーにおける映像音響資料(AV)、バリアフリー資料(BF)及びデジタル資料等の収集・整理・提供事業を推進し、市民の情報検索及び閲覧の環境を提供した。また、せんだいメディアテークの事業、および「3がつ11にちをわすれないためにセンター」において集められた震災関連の映像などを含むさまざまな協働による地域の芸術文化活動の記録や制作物を、smtコレクションとして公開し、映像音響ライブラリーと視聴覚教材ライブラリーを通じて提供した。					配架数:480点(うち、AV 456点、BF 24点) smtコレクション:44タイトル

本報告書掲載事業のうち一部の事業については、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を充当して実施した。

公益財団法人仙台市市民文化事業団
中期経営計画（2018-2020年度）
及び令和3（2021）年度事業報告の概要

1 中期経営計画（2018-2020年度）の全体像

本計画は、2017年1月に策定した「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」にある5つの基本方針に基づき、2018年度から3ヵ年にわたって取り組む事業のねらいや方向性ととも、その実現を支える経営強化目標、収支計画等によって構成されています。

定款 第3条 目的

この法人は、文化芸術の振興、郷土の歴史の継承及び生涯学習の支援に関する事業を行い、もって魅力ある市民の文化創造と豊かな市民生活の実現に寄与することを目的とする。

「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」

5つの基本方針

<方針その1>

資料の収集と活用

ミュージアム施設の管理・運営／常設展・企画展等の開催

<方針その2>

市民の文化活動への支援

活動者への支援・助成・協力／鑑賞機会の提供

<方針その3>

さまざまな人材の育成

講座・ワークショップ・市民協働型事業の実施／
ボランティア組織の運営

<方針その4>

[楽都][劇都]の成長促進

音楽・舞台芸術の振興と創造・発信型事業の推進／
劇場・音楽堂の活性化

<方針その5>

地域文化資源の活用

文化による地域共生社会の振興／新たな地域文化の創造

経営の強化

●人材の確保・育成

●経営基盤の強化

2 5つの基本方針と令和3(2021)年度事業計画(案)の概要

「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」より

＜方針その1＞ 資料の収集と活用 *その2にも該当

歴史や伝統、多様な文化芸術に関する資料収集・調査研究とその成果の活用により、市民の暮らしに息づく文化の保存・伝承および総合的な文化の振興を図り、まちの魅力向上に活かします。

① 資料収集や調査研究を通じて、文化を育み活用する基盤の整備に寄与し、市民文化の振興に努めます

② 調査研究等で得られた成果を活用し、さまざまな手法でこれを市民に提供していくことで、市民が学びを楽しむきっかけをつくるとともに、「ミュージアム都市」として、継続的な学びを支援します

③ 長い年月の中で、災害や技術の進歩、ライフスタイルの転換などにより、変化し、喪失してしまう地域の記録や記憶を保存し、大切な文化資源としての活用を図ります

2018-2021年の方向性

2019年度の「仙台市歴史民俗資料館開館40周年」「仙台文学館開館20周年」を節目と捉え、両施設の周年事業を次の方針で計画・実施・検証するなど、今後の各ミュージアム運営に資する新しい業務に着手していきます。

- ・蓄積した資料や成果を国内外に向けて積極的に情報発信します
- ・施設の存在をさらに広く知ってもらうために、多彩な事業を実施し、新規の来場者を開拓します
- ・現在の施設運営課題を絞り込み、その解決のための新たな方策や事業を試行しながら、その効果を検証します

令和3(2021)年度 事業の概要

新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）に対する適切な感染予防対策を行いながら、施設ごとに特色ある展示事業を実施し、関連事業等とあわせて様々な方向から興味関心をもっていただけるように努めました。

また、多様な方が地域や環境に影響を受けず文化芸術にアクセスできる有効な方法のひとつとして令和2年度に試験的に実施したオンライン講座等についても、積極的に取り組みました。

（１）ミュージアム施設の管理運営・資料収集・調査研究

- ア 仙台市歴史民俗資料館 管理運営[65, 351]（市指定管理料／No. 73, 80, 81）
- イ 仙台市富沢遺跡保存館 管理運営[94, 935]（市指定管理料／No. 83, 90-94）
- ウ 仙台市縄文の森広場 管理運営[48, 022]（市指定管理料／No. 96, 99, 107-111）
- エ 仙台市縄文の森広場 展示手法の開発・導入[739]（自主財源／No. 25）
- オ 仙台文学館 管理運営[182, 629]（市指定管理料／No. 112, 119）

（２）常設展・企画展等の開催

- ア 仙台市歴史民俗資料館 企画展等[2, 751]（市指定管理料／No. 74-77）
- イ 仙台市富沢遺跡保存館 企画展等[15, 183]（市指定管理料／No. 84-88）
- ウ 仙台市縄文の森広場 企画展等[16, 704]（市指定管理料／No. 97, 98）
- エ 仙台文学館 企画展等[9, 039]（市指定管理料／No. 113-118, 120）

主な展示事業

No. 76「仙台市歴史民俗資料館企画展『学都と杜の都～仙台の高等教育と町の文化～』」（9月14日～11月28日）

明治5年の学制公布から150周年を迎えることから、明治時代後期以降学都仙台と称される高等教育機関や中等教育機関、女学校など隆盛した近代仙台の教育文化の変遷を紹介した。（観覧者数:3,662人）

No. 86「地底の森ミュージアム企画展『石っている！』」（1月21日～3月13日）

東北大学総合学術博物館と共催し、仙台の様々な分野をテーマとする12のミュージアムが収蔵する多種多様な“石”にまつわる資料を紹介した。（観覧者数:4,411人）

No. 116「仙台文学館特別展『ぼのぼの連載35周年記念 ぼのぼのたちの杜』」（9月18日～11月28日）

在仙の漫画家・いがらしみきおの代表作「ぼのぼの」の連載35周年を記念した展覧会。本作品の魅力を、原画や作者自身のコメントを合わせながら、様々な切り口で紹介した。（観覧者数:4,343人）

新たな展示手法の開発・導入への取組

No. 25「仙台市縄文の森広場 展示手法の開発・導入」

山田上ノ台遺跡の縄文土器を中心に3Dデータ計測を行い、データの蓄積を行うとともに、「リビングヒストリー」の実践として、「石器製作実験セミナー」を会場とライブ配信の併催にて実施した。

オンラインを利用した講座等の開催

新型コロナ感染防止対策、および、より多くの方に参加機会を提供するため、仙台市歴史民俗資料館、地底の森ミュージアム、仙台市縄文の森広場では、Zoom等のオンラインでの参加にも対応した講座の開催に取り組んだ。

<方針その2> 市民の文化活動への支援

市民が行う自主的な学びや活動の場を提供し、さまざまな文化活動を支援することで、年代やライフステージに関わらず誰もが心豊かな市民生活を送り、地域が活性化することをめざします。

① 市民や市民団体が行う自主的な学びや活動を支援するとともに、市民が多様な文化に触れる機会を提供し、心豊かな暮らしと地域の持続的な発展に寄与することをめざします

② 多様な文化に関わる情報に誰もがアクセスできるよう、さまざまな手法による発信に努めます

③ 震災からの復興や地域づくりにおいて文化が果たしてきた役割を検証し、次代につないでいきます

④ 多様な年代・ライフステージに応じた学びと活動の機会を確保し、文化への理解と支援の拡大をめざします

⑤ 施設の利用者がいつも安全に安心して利用できる管理運営を行うとともに、さらなる魅力の向上を図ります

2018-2021年の方向性

当財団が果たしてきた市民活動支援の役割を維持継続していくとともに、既存の制度や仕組みの段階的な充実を図ります。加えて鑑賞者向け事業やサービスを、時代の変化を意識して再編成します。

・2020年度のせんだいメディアテークの開館20周年を節目と捉え、次の10年の方向性の検討をすすめ、周年事業を計画・実施します

・鑑賞者に向けた各種広報及び「市民文化事業団友の会」、制度改正後10年余りが経過する「支援・助成・協力事業」の仕組み等を改めて検証し、それぞれ有効度の向上に取り組みます

・ホール系施設の劇場としての機能充実を目指し、より良い運営のための外部評価の充実や、文化庁等外部財源のさらなる獲得に努めながら、事業の充実を図ります

令和3(2021)年度 事業の概要

貸出施設のある施設については、適切な感染予防対策を行い安心して利用いただけるように管理運営を行うとともに、コロナ禍においても実施可能な形態を模索しながら、鑑賞機会の創出に努めました。また、泉文化創造センターを除く6施設の次期指定管理者の選定に向けて取り組み、仙台市より、令和4年度から5年間の指定管理者の指定を受けることができました。

新型コロナの影響が長期化するなか、令和2年度に引き続き、文化芸術関係者や市民の文化活動に対して、様々な支援・助成事業を実施しました。

(1) 活動者への場の提供と支援・助成・協力

- ア 仙台市青年文化センター管理運営[321, 407] (市指定管理料等/No. 121)
- イ 仙台市泉文化創造センター管理運営[124, 083] (市指定管理料/No. 122)
- ウ せんだい演劇工房10-BOX・能-BOX管理運営[25, 142] (市補助金・使用料等/No. 56) *その4にも該当
- エ せんだいメディアテーク管理運営・生涯学習支援事業[592, 329] (市指定管理料/No. 123, 124) *その3・その5にも該当
- オ 多様なメディアを活用した文化芸術創造支援事業[76, 341] (市補助金/No. 3)
- カ 実演芸術の公演会場費助成事業[153, 839] (市補助金等/No. 4)
- キ 持続可能な未来へ向けた文化芸術環境形成助成事業[30, 269] (市補助金/No. 5) *その3・その5にも該当
- ク コロナ禍の安全・安心な文化芸術活動のための協働支援事業[1, 394] (市補助金/No. 6) *その3・その5にも該当
- ケ 支援・助成・協力事業[14, 808] (市補助金/No. 7) *その3・その5にも該当

(2) 鑑賞機会の提供

- ア 仙台文学館普及啓発事業[836] (市補助金等/No. 60, 61)
- イ せんだいメディアテーク経常事業[47, 897] (市補助金・助成金・入場料等/No. 69-72) *その5にも該当
- ウ 舞台芸術振興課鑑賞事業[44, 777] (市負担金・文化庁助成金・入場料・自主財源/No. 9, 14) *その4にも該当
- エ 仙台国際音楽コンクール最高位入賞者副賞コンサート[2, 650] (市負担金・出演料等/No. 53) *その4にも該当
- オ 仙台市青年文化センター活性化事業<パフォーマンスフェスティバル等>[232] (自主財源/No. 15) *その4にも該当
- カ 仙台市泉文化創造センター活性化事業<寄席・イズミノオト等>[4, 979] (入場料等・助成金・自主財源/No. 12, 16) *その4にも該当
- キ 仙台市歴史民俗資料館活性化事業<さるまわし等>[375] (自主財源・助成金・刊行物販売/No. 17, 18, 28)
- ク 仙台市富沢遺跡保存館活性化事業<狩人登場!等>[1, 395] (自主財源・参加料等/No. 19, 21, 22, 28)
- ケ 仙台市縄文の森広場活性化事業<縄文まつり復元プロジェクト等>[108] (自主財源/No. 23, 24, 28)
- コ 仙台文学館活性化事業<グッズ制作等>[178] (刊行物販売収入/No. 28)
- サ せんだいメディアテーク活性化事業<ホスピタリティ向上事業等>[170] (自主財源/No. 26-28)
- シ 共催事業[9] (自主財源/No. 13)
- ス 広報事業[4, 340] (市補助金/No. 45)
- セ 「市民文化事業団友の会」事業[2, 086] (自主財源・友の会会費/No. 46)

主な鑑賞事業

No. 15 「パフォーマンスフェスティバル」(2月26~27日)

大規模改修後のリニューアルオープン企画として実施。コンサートホール、シアターホール、パフォーマンス広場等全館を使用するプログラムとし、2日間にわたり施設の利用者及びゆかりのある市民やアーティストで賑わった。(入場者: 2,942人)

No. 16 コンサートシリーズ「イズミノオト」(7月3日、11月28日、2月27日)

仙台市泉区出身で在住の音楽家による監修で、作曲家の創作の源泉をたどりながら音楽を楽しむコンサートシリーズの3年目。令和3年度は「スメタナ・ドヴォルザーク・ヤナーチェク」「ドビュッシー」等をテーマに取り上げ好評を得た。(入場者: 980人)

新型コロナウイルス感染症に関する文化芸術関係者等に対する支援事業

No. 3 多様なメディアを活用した文化芸術創造支援事業 (6月1日~12月31日)

令和2年度に引き続き、新型コロナの影響が拡大・長期化するなかで、多様なメディアを工夫して使い、市民に文化芸術を届ける創造的な活動を助成した。(採択件数: 223件)

No. 4 実演芸術の公演会場費助成事業 (4月1日~3月31日)

令和2年度に引き続き、市内の民間屋内施設を利用し、新型コロナの感染防止対策を施して公演を行う主催者に対して会場使用料の一部を助成した。(採択件数: 1,792件)

<方針その3> さまざまな人材の育成

多様な文化活動に関わる人材のすそ野を広げ、子どもたちをはじめとする次世代や新たな担い手の育成に努め、文化に関わる市民力の向上をめざします。

- ① 子どもたちが優れた文化や地域の歴史に触れる機会を増やし、次代の文化の担い手としての成長を応援します
- ② 各種ボランティアやサポーターの活躍機会の拡大に努め、互いに交流・連携しながらスキルアップをめざす取り組みを応援します
- ③ 多様な文化の担い手となる人材を育成し、新たな文化の創造や地域文化の発展・継承をめざします
- ④ 地域に受け継がれてきた伝統や民俗芸能の継承を支援し、鑑賞の機会を増やして理解を広げ、地域への誇りや愛着を深めていきます

2018-2021年の方向性

市民の多様な興味関心に応じて、芸術文化に触れる機会を広く提供する講座・イベントから、表現活動のスキルアップを目的としたワークショップまで、豊かな文化活動の担い手育成のために多層的なプログラムを実施します。

- ・ 子どもから大人まで、文化を体験できる多様な事業を行います
- ・ 地元のアーティスト、学芸員、指導者など向けに、受講者とのコミュニケーション方法や派遣先の地域や学校をつなぐコーディネート手法など、ワークショップを支える人材の育成を図ります
- ・ 文化施設や大規模な文化事業と一緒に運営するボランティアの方々とは、ノウハウの情報共有を行っていきます

令和3(2021)年度 事業の概要

未就学児の親子向け、高齢者向け、障害のある人となない人の垣根なく参加できるワークショップ等、多様性のあるプログラムを用意し、様々な創造体験を通じ、文化の担い手の育成を図りました。

また、国際音楽コンクールや仙台クラシックフェスティバルの会場運営等にあたるボランティアの活動サポートやミュージアム施設を支えるボランティア事業については、新型コロナの感染予防対策を行いながら、活動の継続につとめました。

(1) 講座・ワークショップの実施

ア 舞台芸術振興課人材養成事業[44, 777] (市負担金・文化庁助成金・自主財源・入場料等/No. 14)

*その5にも該当

イ せんだい演劇工房10-BOX 舞台芸術人材育成事業[4, 016]

(市補助金・助成金・受講料等/No. 30, 32, 33, 37) *その4にも該当

ウ 能-BOX 古典芸能人材育成事業[801] (市補助金・受講料/No. 34) *その4にも該当

エ 東京藝術大学音楽学部早期育成プロジェクト[260] (自主財源/No. 43) *その4にも該当

オ 仙台文学館 学芸員出前講座・仙台文学館ゼミナール等各種文学講座[1, 889]

(市補助金・受講料等/No. 62, 64)

カ 仙台市歴史民俗資料館 子ども講座・たんけん資料館等各種講座、ワークショップ

[6] (市指定管理料/No. 78)

キ 仙台市富沢遺跡保存館 考古学講座・たのしい地底の森教室等各種講座・市民文化財研究員

[1, 063] (市指定管理料/No. 89)

ク 仙台市縄文の森広場 発掘調査体験教室・夏休み子ども考古学教室等各種講座

[707] (市指定管理料/No. 100, 101)

ケ 芸術家派遣事業 (実行委員会参画/文化庁委託料/No. 42)

(2) ボランティア組織の運営

ア 仙台国際音楽コンクール・仙台クラシックフェスティバル/ボランティア事業

[1, 907] (市負担金等/No. 52) *その4にも該当

イ 仙台文学館友の会支援事業 (No. 67)

ウ 仙台市歴史民俗資料館サポーター養成事業[6] (市指定管理料/No. 78)

エ 仙台市富沢遺跡保存館ボランティア事業[1, 063] (市指定管理料/No. 89)

オ 仙台市縄文の森広場ボランティア事業[30] (市指定管理料/No. 102, 109)

主な講座・ワークショップ

No. 14 高齢者向け演劇ワークショップ (劇場・音楽堂等機能強化推進事業 人材養成事業)

50歳以上を対象としたワークショップを実施し、「老いていくこと」「年齢を重ねること」についてアーティストや参加者同士のセッションをしながら、小作品「林冠の先」を創作し、パフォーマンスフェスティバルで発表した。

No. 14 障害のある人となない人が創る人形劇「SHIROアトリエ&スタジオ」 (劇場・音楽堂等機能強化推進事業 人材養成事業)

ファシリテーターがサポートやアドバイスをしながら、人形づくりや衣装づくり、劇の背景画を描くなど、人形劇に必要な作品を、多様な素材や画材を用いて自由な発想で創り出した。

「パフォーマンスフェスティバル」で成果発表の予定だったが、宮城県の緊急特別要請を受け実施を見送り、代替発表会を関係者のみで実施した。

主なボランティア事業

No. 52 仙台国際音楽コンクールボランティア

第8回コンクール期間中の活動に向けてボランティアを新規募集し、研修や打合せ等を重ねて準備を進めるとともに、ボランティアプロジェクトとしてコンクールの紹介動画の制作・配信、トークコンサートの企画・運営等に取り組んだ。(登録者数: 226名)

<方針その4> [楽都][劇都]の成長促進 *その2・その3にも該当

「楽都」や「劇都」として、市民が参加し、育んできた文化をさらに成長させ、仙台の魅力として国内外に発信していきます。

- ① まちに音楽があふれ、誰もが気軽に楽しむことができる機会を拡充し、音楽を「する」「聴く」「支える」文化を育て、仙台の文化としての発信に努めます
- ② 子どもたちをはじめとする若い才能を育み、世界に羽ばたくチャンスをつくり、「楽都」の基盤を支えます
- ③ 舞台のづくり手と支え手の育成を支援するとともに、活躍の場を広げ「劇都」にふさわしい舞台芸術の振興に努めます
- ④ 多様な市民が集い、感動を共有する場である劇場等を地域における文化拠点として運営し、文化の継承・創造・発信の場として活用していきます

2018-2021年の方向性

- ・ 3年ごとに開催する「仙台国際音楽コンクール」は、2018年度に本格的な準備を行い、2019年度に第7回開催（5月～6月）、2020年度の第8回開催の概要広報まで、一連の業務を想定し、制作を進めるとともに、継続的に地域の音楽文化振興に寄与する関連事業を実施します
- ・ 12回の継続を経て市民に深く浸透した「仙台クラシックフェスティバル」を、新規性も加味しながら引き続き開催し、音楽ファンのさらなる拡大によって「楽都仙台」の充実を図ります
- ・ “劇場法”の制定で重要度が増す「舞台芸術振興」のための諸事業を、せんだい演劇工房10-BOXとホール系施設の役割を改めて相互に明確化しながら再整備し、個々の事業の目的を明確にし、有効性を高めます
- ・ 仙台市と検討を進めている今後の舞台芸術振興のヴィジョンづくりを継続し、事業体系全体の構造を強化することから、「劇都仙台」事業の充実を図ります

令和3(2021)年度 事業の概要

令和4年度開催の第8回仙台国際音楽コンクール開催に向けて、出場者募集と予備審査実施、出場者決定のために必要な事務局業務を着実に遂行しました。

2年ぶりの開催となる「仙台クラシックフェスティバル」は、感染予防対策を徹底し、例年とほぼ同規模で15回記念事業として実施することができました。

3ヵ年の最終年度となる「仙台舞台芸術フォーラム」では、仙台ゆかりの劇作家による新作公演を上演したほか、集大成として冊子を発行しました。

(1) 音楽の振興と創造・発信型事業の推進

- ア 仙台国際音楽コンクール運営事業[36, 447] (市負担金・その他／No. 48-54)
- イ 仙台クラシックフェスティバル[84, 941] (市負担金・国庫補助金・協賛金・入場料・自主財源等／No. 10)
- ウ 仙台ジュニアオーケストラ運営事業[22, 352] (市負担金・受講料・入場料等／No. 55) *その3にも該当
- エ もりのみやこのふれあいコンサート[3, 728] (市補助金／No. 11)
- オ 市制施行記念コンサート[16] (市受託料／No. 58)
- カ 地下鉄駅コンサート (No. 38)

(2) 舞台芸術の振興と創造・発信型事業の推進

- ア せんだい演劇工房10-BOX 現代演劇鑑賞事業[4, 360] (市補助金・自主財源／No. 31)
- イ 市民能楽講座 (市負担金／No. 29)
- ウ 能-BOX 経常事業[801] (市補助金・受講料／No. 34)
- エ 仙台舞台芸術フォーラム[9, 665] (市負担金・入場料等／No. 40) *その5にも該当

(3) 劇場・音楽堂の活性化

- ア 劇場・音楽堂等機能強化推進事業[44, 777] (市負担金・文化庁助成金・自主財源・入場料等／No. 14)

主な楽都仙台事業

No. 10「仙台クラシックフェスティバル2021」(10月1～3日)

45分と60分の公演時間、チケットは一般の公演と比較し手の届きやすい料金で、本格的なクラシック音楽を気軽に楽しんでいただける音楽祭として、仙台銀行ホール イズミティ21、日立システムズホール仙台、エル・パーク仙台、太白区文化センターの4施設を会場として、3日間83公演を設け、多様なジャンルのクラシックコンサートを開催した。(入場者：のべ21,200人)

主な劇都仙台事業

No. 40「仙台舞台芸術フォーラム」(6月～3月)

東日本大震災の記憶と経験をふまえ、過去・現在・未来を橋渡しする舞台芸術作品を創造・発信するとともに、人材の発掘と育成を行うプロジェクトの最終年。当年度は、仙台ゆかりの劇作家・柴幸男による、東日本大震災から現在までの10年を描く新作公演『てんとせん』を創作し発表した。また、3ヵ年の成果として冊子『東日本大震災と劇都仙台～あのととき、そしてこれから』を刊行した。

<方針その5> 地域文化資源の活用

多様な分野や担い手との連携と交流を進め、地域や文化資源の新たな魅力発掘に努めるとともに、文化の力を地域の活性化や課題の解決に活かします。

- ① 自然や歴史、伝統など、地域に息づき、育まれてきた文化の土壌を発展させ、その魅力を高める活動を支援します
- ② さまざまな文化活動を介して他者への理解を促進し、多様な価値観と生き方を認め合う地域社会をめざします
- ③ 地域の課題や魅力の発見・発掘に努め、多様な担い手と連携して新たな地域文化を育む取り組みを支援します

2018-2021年の方向性

地域共生社会に対応した文化活動のあり方を模索し、地域や社会課題に対応した文化事業を実践していきます。

- ・施設来場者、文化芸術団体、施設近隣の方々など、さまざまな立場の方々と文化施設や文化事業のあり方について対話を行い、地域における幅広いニーズや意見を把握します
- ・それらの知見をもとに、自然・環境、子育て、障害のある方の情報アクセス、震災の記憶・記録を残し伝え学ぶ環境などに対応した事業を模索し、各文化施設の特徴や資源を活かして実施していきます
- ・特に、地域に甚大な被害をもたらした東日本大震災については、2021年3月には10年目を迎えることから、震災から11年目以降の次世代に向けて、文化活動を通じた震災の経験や記憶の継承について、持続可能なあり方を模索していきます
- ・仙台市文化プログラムやせんだい・アート・ノード・プロジェクトでは、社会の課題を見据え、地域の資源や人材を生かした文化事業を行います

令和3(2021)年度 事業の概要

仙台市から委託を受けてせんだい3.11メモリアル交流館を運営し、様々な企画展や事業を開催し、震災10年を期にさらなる施設機能の強化に取り組むとともに、地域の活動団体との連携を積極的に行いました。

6年目となる「アート・ノード・プロジェクト」、最終年度となる「仙台市文化プログラム」の実施にあたっては、地域や社会の課題を意識しながら、地域の文化資源を活かした事業を行いました。

(1) 地域共生社会を見据えた事業

- ア 利用者や地域との運営懇談会（市指定管理料／No. 95, 105）
- イ 仙台市富沢遺跡保存館 地域交流促進事業[97]（自主財源／No. 20）
- ウ 仙台市縄文の森広場 野外展示「縄文の森」の多目的活用（市指定管理料／No. 106）

(2) 震災・復興に文化を通して向き合う事業

- ア せんだい3.11メモリアル交流館運営・各種事業[58, 588]（市受託料、受講料／No. 57）
- イ 仙台舞台芸術フォーラム[9, 665]（市負担金・入場料／No. 40） *その4にも該当

(3) 地域・社会の課題を見据えた文化事業 *その3にも該当

- ア 持続可能な未来へ向けた文化芸術環境形成助成事業[30, 269]（市補助金／No. 5） *その2にも該当
- イ コロナ禍の安全・安心な文化芸術活動のための協働支援事業[1, 394]（市補助金／No. 6） *その2にも該当
- ウ 「仙台市文化プログラム」共催事業[5, 478]（市負担金／No. 39）
- エ 舞台芸術振興課人材養成事業[44, 777]（市負担金・文化庁助成金・自主財源・入場料等／No. 14）

(4) 新たな地域文化創造にむけた事業 *その2にも該当

- ア せんだい・アート・ノード・プロジェクト[22, 266]（市補助金／No. 69）
- イ 持続可能な未来へ向けた文化芸術環境形成助成事業[30, 269]（市補助金／No. 5）

No. 57「せんだい3.11メモリアル交流館運営」

仙台市東沿岸部地域にまつわる伝承や物語を、仙台在住の俳優の身体を通して語り継ぐ試み「Voice～仙台市東部沿岸地域の伝承と物語～」をはじめとする年4回の企画展のほか、沿岸部の風土や文化、地域で活動する人々を紹介するツアーやワークショップ等を実施するとともに、積極的に市民・団体・組織等と協働することで、様々な来訪者が訪れ集う場として親しまれる運営に努めた。（年間来場者：25,849人）

No. 39「仙台市文化プログラム事業」（通年）

オリンピック・パラリンピックを契機として、地域の文化芸術分野における多様な資源を生かした事業を推進し、その成果が地域に継続的な波及効果をもたらしていくことを目的に実施。最終年度となる当年度は、昨年度に引き続き「障害のある人たちの文化芸術活動支援・推進」「地域の文化芸術資源活用」をテーマにした2事業を、事業実施者と仙台市、事業団の3者共催事業として実施した。（参加者：のべ2,727人）

No. 69「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」（通年）

津波で被災した仙台市沿岸部・新浜地区の貞山運河沿いで同地域で活動する人々とともに取り組む川俣正によるプロジェクト「仙台インプログレス」では、令和2年度に制作した木道に隣接したエリアに「新浜タワー」を制作したほか、「ワケあり雑がみ部」「インタビューズー」等、オンライン等のメディアも積極的に活用しながら、まちの魅力と人々の活気を引き出し、文化都市仙台を発信した。（総参加者：26,811人）

3. 経営の強化に向けた取り組み

「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」より

●人材の確保・育成

(1) 職員の専門性と能力の開発

- ア 他都市や他機関を含む研修機会の充実
- イ 専門性の高い人材の確保
- ウ 中長期的な育成の見地に立った異動・交流のしくみの検討

(2) 市民協働の推進

- ア 市民協働のさまざまな場面での推進
- イ ボランティアやサポーターの活動機会の拡大・ネットワーク構築

2018-2021年の方向性

- ・ 仙台市及び他機関の研修機会を積極的に活用します
- ・ 独自に企画する研修の分野や機会を拡大し、内容の充実を図ります
- ・ 職員個々の適性をもとに、キャリアアップやO J Tの観点を重視しながら、育成面でも有効な人事を行い、組織力の維持向上を図ります
- ・ 今後増加する職員の定年退職に備え、中長期の再雇用計画について検討を進めます
- ・ 各事業の実施を通して、外部のさまざまな方々と協働することから、仙台の文化芸術振興に欠かせない担い手の育成を進めます

令和3(2021)年度の取り組み

- (1) 独自研修として、会計・契約・文書事務研修、メンタルヘルス研修、情報公開と個人情報保護研修を実施した。
- (2) 令和4年度以降の固有職員再雇用計画を作成し、令和3年度末定年退職職員の再雇用を実施した。
- (3) 助成事業等、市民活動支援事業の充実に向けて検討・再編し、募集した。

●経営基盤の強化

(1) 運営基盤の強化

- ア 補助金助成金の活用／多様な資金調達手段の開発
- イ 新たな顧客やリピーターの開発／友の会制度の見直し

(2) 組織の強化

- ア 外部団体や企業との連携の促進
- イ 他都市や他機関との連携の促進
- ウ 組織内での情報共有の徹底
- エ チャレンジする組織風土への変革

(3) 安心・安全の確保

- ア リスク予防やBCP策定等による安心安全体制の構築
- イ 運営施設の案内やサイン表示のわかりやすさの向上
- ウ 運営施設の老朽度合等の把握／こまめな修繕

(4) 情報発信の強化

- ア ホームページの見直し
- イ SNS等の活用

2018-2021年の方向性

- ・基本財産及び退職給付引当資産の運用先の拡大を視野に、規程の見直しを含めて検討を進めます
- ・寄付取得の方法やその広報手法の調査・開発を行います
- ・外部資金獲得のための情報収集・共有を、組織内で徹底します
- ・「市民文化事業団友の会」制度の見直しを行い、文化鑑賞会としてのサービス・アップを図ります
- ・ホームページの改善にむけ、調査・検討を継続し、システム改修を行います
- ・施設の指定管理を維持していくため、総合的な経営基盤の強化を施設の運營業務においても生かしていくとともに、次期申請に向けた新しい取り組みを開発します

令和3(2021)年度の取り組み

- (1) 青年文化センター、歴史民俗資料館、富沢遺跡保存館、縄文の森広場、仙台文学館、せんだいメディアテークの次期指定管理者申請を行い、令和4年度から5年間の指定管理者に指定された。
- (2) 文化庁・地域創造のほか、民間団体による助成金制度も活用し、外部資金獲得の拡大を図った。
- (3) ホームページやSNSによる情報発信の強化を図り、広報媒体の見直しを行った。
- (4) 基本指針を見直し、第2次中期経営計画を策定した。
- (5) 業務継続計画(BCP)《災害編》を策定した。